HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	授業書方式による「イギリス産業革命（第二部）」の実践
Author(s)	梅津，徹郎
Citation	教授学の探究，2，43-146
Issue Date	1984-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/13517
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_p43-146.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

授業書方式による『イギリス産業革命(第二部)』の実践

梅　津　徹　郎
(札幌新川高校)

はじめに

社会科教育において,「社会科は社会科学に立脚した科学であり，社会科学的概念の基礎の形成をめざす教科」であるという性格規定が，民間教育研究団体では定説となっている。

社会科発足以来30数年を経た今日，社会科教育は様々な問題をかかえているが,「すべての子どもたちに質の高いレベルの科学的概念の習得」をめざす社会科教育研究において，今切実に求められなければならないのは，すべての子どもに，社会科学的概念の基礎を形成しうるような教授プログラムを多数つくりだし，それを確定することであると考える。

この点に関して藤岡信勝氏（現東京大学）も同様に，従来の社会科教育においては，教授プログラムを一つひとつ確定するという思想がきわめて乏しいということを指摘しつつ「教育内容の科学性とそれに基づく教材の具体的展開」形式そのものを確定していくことこそ「国民の教育要求にも応える生産的な方向」であると主張している。(傍点－梅津)

そして，その具体的方策の一つとして，自然科学教育における「仮説実験授業」(国立教育研究所，板倉聖宣氏が'63年に提唱）の形式を社会科学教育にも導入し，いつでも，だれでも同じ過程を再現できるような科学性の高い教授プログラム（以下「授業書」とよぶ）を確定することの必要性と可能性について，いくつかの問題提起を行った。('76年)

本レポートでは，藤岡氏らの方法論的立場を支持し,「イギリス産業革命（第二部)」の授業書の作成と，その実践，および結果等を中心に述べることにする。

I　なぜ「イギリス産業革命」をとりあげたか

歴史学的な認識を形成する場合，生産的労働が社会発展の原動力であることの理解が，もっとも根幹的なものであると考えられる。

イギリスの産業革命はマニュファクチュアに大工業がとって変わる生産様式の変革であり，結果として近代資本主義的生産様式をつくりあげた典型となっている。

それゆえ，この過程をとり扱うことによって，商品・労働・生産・資本などの社会科学の基礎的概念を教授できるであろうと考えた。これが「イギリス産業革命」をとりあげた第1の理由である。

第2の理由は，自然を変革する生産技術の発展的展開が，この産業革命にみごとにあらわれており，人間のすばらしさ，技術的発展のすばらしさ，生産のよろこび等々を技術的発展の側面（第一部）を扱うことによって，生徒に理解されうるであろうと考えたからである。

II　イギリス産業革命の授業書「第一部」と「第二部」について

① 構　成

第一部

（技術的発展を扱う）

1 作業機の発達（紡績）

2 動力の発達（蒸気機関への道）

3 機械をつくる機械の発達

4 交通の発達

5 鉄鋼業の発達

第二部

（社会構造の変化を扱う）

1 農 業 革 命……3時間（うち1時間は映画）

2 農村工業の光と影……2時間

3 都市の形成……2時間

4 産業資本の蓄積……2時間（進度によっては3時間）

5 労働者階級の状態……3時間

6 労働者階級の成立……3時間

III 『第二部』の構成と内容の若干の解説

≪作成上の留意点≫

『第二部』ではイギリス産業革命期の社会構造の変化を扱うが，この場合，次の三点にその変化の特徴をみることができよう。すなわち，

i）農林漁業の相対的地位の低下と鉱工業の比重の増大。

ii）i）にともなう階級構成の変化

iii）人口の都市集中

がそれである。『第二部』の作成にあたっては，これらの点を考慮しつつ，さらに以下の事を課題とした。

① 『第一部』（技術上の発展）の積極面が否定されない内容構成をどのように創るか。

② 二大階級の形成過程をダイナミックにどう示すか。

③ 産業革命期の労働者と現代の労働者は，生活様式こそちがうが，対資本家との関係では同じであるという事をどう認識させるか。

④ 労働者の〝階級〟としての成立をみる際，その数的増大だけではなく，労働者の「組織化」「意識の変革」をどう具体的に示すか。

⑤ 団結権の正当性をどう示すか。

⑥ イギリス資本主義の特徴のひとつである「植民地」をどのような内容で構成するか。

1 農業革命

このテーマでは，「第一次エンクロージャ」から「第二次エンクロージャ」にかけての農村の変化，また農業部門での資本主義的生産関係の形成過程を学ぶ。

同時に，農村での地主，農業資本家のもとに蓄積された資本が産業革命をおしすすめるうえでどのような役割をはたしたかについても学ぶ。

2 農村工業の光と影

このテーマでは，機械制大工業の拡大と家内工業の残存について学ぶ。また，工場労働と家族労働の質的ちがいについてもまとめてみる。

3 都市の形成

このテーマでは，人口の増加，人口の都市集中を中心に扱うが，都市人口の増加だけでなく，農村人口も増加している点に注目させる。さらに，都市での労働者の生活についても社会史的エピソードをくわえて紹介する。

4 産業資本の蓄積

このテーマを作成するにあたっては，〝西インド植民地〟と〝インド植民地〟のどちらの方が，より産業革命をおしすすめるうえで重要であったかを検討した。その結果，産業資本の蓄積，とりわけ，産業革命を準備した資本の蓄積という点では，インドより西インドプランテーションの方がより大きな比重を占めていることがわかった。

そこで，第4テーマの作成にあたってはインド植民地を捨象し，西インドプランテーションを中心とする三角貿易による資本蓄積に内容をしぼった。

5 労働者階級の状態

このテーマでは，当時の労働者の平均寿命，すなわち〝生命〟の問題から入り，最下層労働者といわれたアイルランド人労働者をはじめ，鉱山労働者，児童労働者，婦人労働者等を扱った。

資本家（工場主）の搾取の実態を具体的に示しつつ，「生産手段」をもつ者ともたざる者とが両極に位置している点を学習する。

6 労働者階級の成立

このテーマでは，1830年当時の就業人口の構成を数的におさえつつ，イギリスが農業国から工業国へ転化したことを「産業別国民所得」によってあきらかにする。次に，労働者階級の組織化過程を「第一次選挙法改正」以後のいわゆる「チャーチスト運動」と労働組合の全国組織の結成にしぼって展開した。

IV 生徒の実態と授業運営

今回，授業の記録として発表するのは札幌新川高校（定時制）の4年生A組，B組のうちのB組で，『イギリス産業革命（第二部）』の授業である。

① 生徒の実態（4年B組　男子8名，女子4名，計12名）

生徒12名のうち現在就業している者8名，未就業の者4名（このうち1名は最近離職した）である。

最年長者は，33歳の主婦である。

漢字が読めない，書けない，あるいは基礎的な四則計算が十分でないという生徒が多い。

中学校時代から「成績」でいじめられてきていることもあって，学習意欲に欠ける面が多く，勉強は苦痛なもの，おもしろくないものと思っている生徒が男子に多い。

しかし，また一方で，様々な困難の中でまじめに勉強にとり組んでいる生徒がいることも事実である。

② 4Bの生徒は，授業の中で自分の考えや意見を発表したり，思ったことを口にだして討論することがなかなかできない。

そこで，本来の「仮説実験授業」での運営方法からはややはずれたが「指名」によって予想の理由を聞いた。（くわしくは授業の記録参照）

V 「イギリス産業革命（第二部）」授業書と授業記録

○授業校

札幌新川高校（定時制）　4年B組　男子8名　女子4名　計12名

1時間目　'83. 9. 19 実施　欠席1名（新井）

「イギリス産業革命（第二部）」の概要と授業のすすめ方等について話をし，0ページを配布した。

映画「イギリスの産業革命」（エンサイクロペディア・ブリタニカ製作）を観る。

みなさんはイギリスの正式国名を知っていますか。

「グレートブリテンおよび北部アイルランド連合王国」というのが正式国名です。

ところで，「産業革命（第一部）」では，イギリスにおける技術の発展を中心に学んできました。

これからみなさんと勉強する「産業革命（第二部）」は主に18世紀～19世紀の，イギリスの社会構造の変化をあつかったものです。

産業革命を通じてイギリスはどのように変化していったのでしょうか？

まずはみなさんを産業革命前のイギリスへ御案内しましょう。

〔図 0〕

映画『イギリスの産業革命』をみてみましょう。

(0)

（注） この映画は16 mm フィルムとＴＶビデオ用とがある。今回はＴＶビデオ用を使用した。
生徒の映画への集中度はあまり良くなかったが，前半の〝農村のようす〟は大むね理解できたようである。

2時間目 ’83. 9．29 実施　　欠席２名（岡崎，藤沢）

今日から等１テーマ「イギリス農業革命」に入る。中間考査のため，10 日間程授業がなかったので，再度，「第二部」の概要を話し，（1-1）を配布した。授業書の問題を読みあげたのち，予想をとり，板書した。

予想分布
(ア) 2
(イ) 1
(ウ) 4
(エ) 3

1 イギリス農業革命

〔問　題〕 現在イギリス議会には，上院と下院があります。ところで，この上院の議長席のイスはどんな材料でつくられていると思いますか。

（予　想）
(ア) 厚地の綿布の袋でつくられている。
(イ) 羊の皮袋でつくられている。
(ウ) 彫刻のはいった大理石でつくられている。
(エ) 彫刻のはいった木でつくられている。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

(1-1)

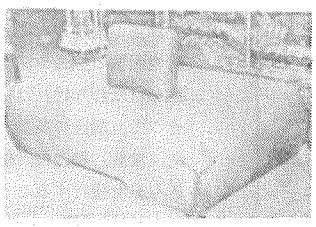
T：予想で1番少ないのが〝羊の皮袋〟1人。得永さんか。
新井♂：特別だから，この人。（笑い）
T：どうしてそう思ったの。
得永♀：㋑イギリスは羊が多そうだと思ったから。
T：次に少ないのが㋐だね。新井君はどうして〝厚地の綿布〟でできていると思ったの。
新井：㋐議長席でしょう？　ずっとすわってるんでしょう？　だから，お尻痛くなるから。だから，やわらかーいもの。
T：羊の皮袋だってやわらかいんじゃないかな？
新井：こりゃぁ，まぁフィーリングだね。（笑い）
T：㋒の彫刻の入った大理石。これは細川君かな。細川君はどうして㋒だと思ったのかな。
細川♂：㋒一番豪華にみえるから。
新井：それがまずいんだ。いかにも一般的な考え方がまずいんだって！（笑い）
T：知里さんはどう？　知里さんは㋓かい？　そうしてそう思った？
知里♀：㋓木が一番それらしいから。
得永：木だったらトゲ刺さるっしょ！（爆笑）
T：エッ？　何って言ったの？
新井：木だったらトゲ刺さるんだって。小学校のイスじゃねえんだゾ！（笑い）
得永：冗談だって！

……

T：門脇君に聞いてみるかな。門脇君はどうして㋒だと思った？
門脇♂：㋒同じ理由。
T：同じ理由って，豪華だからっていうことかい？
門脇：うん。
T：小林さんは㋐だね。小林さんはどうして？
小林♀：㋐綿布だと（すわっていて）何となく落ち着く。
新井：ホラ！　何となくだべ！（笑い）
T：長谷川さんはこれか。㋓だ。
長谷川♀：㋓なんとなく（木だと）古風でいい。
T：なんとなく古風でいいかい。山本君は㋒だね。彫刻のはいった大理石。どうしてそう思ったの？
山本♂：㋓何となく。（笑い）
T：能代谷君はこれだな。㋓だな。どうしてそう思った？
能代谷♂：㋓何となく。（笑い）
（あとはあまり意見がでてこない）
T：あと何か言いたいことある？
意見もでないので（1-2）を配布した。
（注）私のミスで，予想変更をとるのを忘れてしまった。
得永：ジャーン！　やったネ！
（㋑だってヨ！　の声，ざわめき）
T：はい，それでは（1-2）を読みます。

15, 16世紀のイギリスは国内産の良質な羊毛のおかげで，ヨーロッパ第一の毛織物工業国に発展していました。(ただしこれは，産業革命を通じて綿織物工業にとってかわられます)

羊毛こそ大英帝国の繁栄の基礎をきずいたというわけでしょうか，上院の議長席は右の写真のような羊の皮袋（これはウールサックとよばれている。）でつくられたイスになっています。



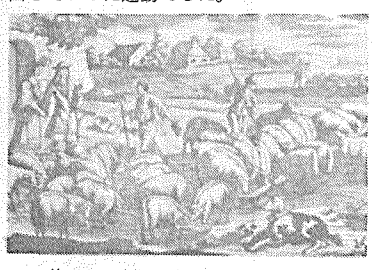
ウールサック　イギリスの国会議事堂の中にある上院議長席。羊毛の皮袋で作られているのでウールサックとよばれる。イギリスが中世以来羊毛によって繁栄してきたことを表わす象徴である。

〔図Ⅰ-1〕

イギリスでは16～17世紀にかけて毛織物の需要をまかなうため大地主（彼らはほとんどが貴族階級であった）が耕作地を石垣やサクで囲い，羊牧地にしてしまいました。

その面積は約50万エーカーといわれています。

これは「第一次囲い込み（エンクロージャ）」とよばれるもので，羊を飼うため，地主が一方的な暴力によって無理やり中小の借地農民を土地から追い出していった運動でした。



羊が人を喰う　羊毛生産はイギリスの古くからの伝統的産業で，16－17世紀には牧羊のためのエンクロージャがおこり，多くの農民が村から追い出された。

〔図Ⅰ-2〕

トマス=モアという人は，当時の農村でのありさまを著書「ユートピア」の中で，〝おとなしい羊がこのごろでは人間をさかんに食い殺している〟と批判しています。

(1-2)

(1-2) では，羊を飼うために「第一次囲い込み」という事件がおきたことを強調した。

また，イギリスの面積の単位が「エーカー」であることをつけ加えたが，具体的な広さ (m^2) については (1-3) を考慮して説明を省いた。

(1-2) を読み終った後，ひきつづき (1-3) を配布した。

(1-3) の話の部分を読み終えたあと，確認のため「第一次囲い込み」と「第二次囲い込み」の違いについて板書した。

板書内容は，①目的②方法のちがいであった。

次に［問題］を読み，予想をとった。

予想分布

(ア) 1

(イ) 2

(ウ) 5

(エ) 2

イギリスでは18～19世紀にかけて，人口の急激な増加や，戦争がおこり，大量の穀物（食糧）が必要になりました。

農業の生産力を高めるためには耕地面積の拡大や経営・技術の改良を行なわなければなりません。そこで、議会に多数を占める大地主（貴族）勢力は，耕地を拡大するため，立法を裏づけとした「第二次囲い込み」を強行することにしました。

囲いこみ（石をつみあげて囲っているところ）

〔図Ⅰ-3〕

これは，「第一次囲い込み」が一方的，暴力的であったのとちがい，議会を通過した法律を背景にしていた点が異なります。

〔問　問〕「第二次囲い込み」で囲まれた土地の面積は，約650万エーカー（「第一次」の13倍）でしたが，さてこの広さは甲子園球場（総面積14,700㎡）の何倍くらいだったと思いますか。

（予　想）

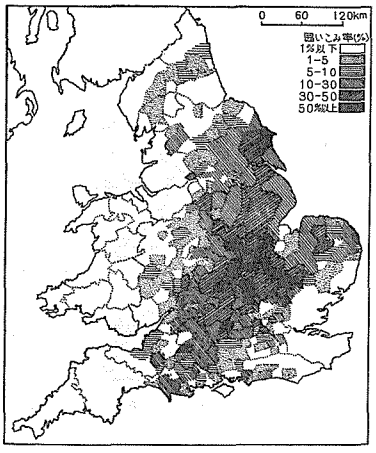
(ア) 10,000倍くらい。

(イ) 100,000倍くらい。

(ウ) 1,000,000倍くらい。

(エ) 1,000,000倍以上。

予　想



1700－1870年にいたるイギリスの共有地囲込みの進行　議会の調査文献による。

〔図Ⅰ-4〕

(1-3)

（注）　この問題の手がかりとなる材料が，〝甲子園球場の…〟という漠然とした広さであるため，ピンとこない生徒が多いようであった。学校の体育館，自分のまち，支庁の面積などを予想材料として提示した方がよいと思う。

左の予想について，理由を聞いたが，やはり問題の内容が良くなくて，意見はでてこなかった。〝数字〟そのものを問う場合，明確な判断材料がなくてはならない事を教えてくれた。

(1-4) を配布し，読んだ。

(1-4) では，「第二次囲い込み」が「議会エンクロージャ」と呼ばれていること，また，その時期に人口の急増があったことなどを補足説明した。

1エーカーは4,047m²です。ですから650万エーカーは

4,047m²×650万＝26,305,500,000m²になります。

甲子園球場が14,728m²ですから，「第二次囲い込み」で囲われた土地の広さは，

26,305,500,000÷14,728＝1,786,088

すなわち，約178万倍ということになります。

ちなみにジョージ3世（在位1760～1820）の治世のときだけで議会を通過した「囲い込み」立法は3,354件，その総面積は400万エーカー以上にのぼっています。

どうしてこれだけ広い土地が囲われたのでしょうか。それは，彼の在位期間にイギリスの人口が680万人から1,240万人へと，実に2倍近くも増大したからなのです。

(1-4)

次に（1-5）を配布した。

（1-5）はこの第一テーマの中でもポイントになるところである。

当時の農村における人間関係＝生産関係を明らかにした後，そこに「農業資本家」とよばれる人間が新たに登場し，「三分割制」が成立していったことを確認した。

従来の教科書等の記述では，「囲い込み」によって追い出された農民は職を求めて都市へ流れて行ったとしているものが多い。たしかに，そのような面はあるが，少なくても，土地を追われた農民がすぐさま都市（まち）へ行ったとするのは正しくない。圧倒的多数の農民は，農業以外で生計をたてたことはなく，また，土地への執着から，容易に農村部から離れることはなかったのである。

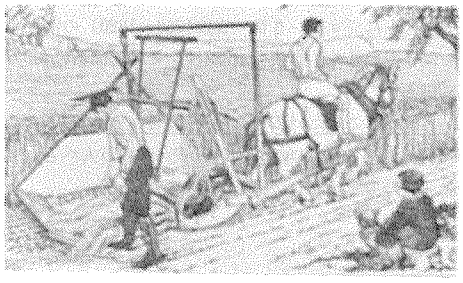
先ほどもふれたように，食糧需要が増大した原因としては，主に次の二つの点があげられます。

第１　人口の急増（特に都市人口の増加）

第２　政府による買い付け（アメリカ独立戦争，対仏戦争 etc）

当時農村には大地主のほかに，自作農民，借地農民，農業労働者とよばれる人々がいました。

大地主は高い地代を得るためには，従来の小規模な借地農業経営ではなく，大規模な，生産性の高い農業経営をしてくれる企業家（借地農業資本家）に土地を貸した方がよいと考えるようになりました。



〔図Ｉ-5〕

というのは，当時の地代はその土地からできる作物の収量や価格によって決められていたからです。

そこで大地主は共有地や荒地をどんどん囲い込み，多数の自作農民，小借地農民を土地から追い出してしまいました。

追い出された人々は，都市へ行くか，あるいは農村にとどまって農業労働者となったのです。

こうして18～19世紀にかけて，イギリスの農村には今までとは異なる，次のような経営形態ができあがりました。

大地主（貴族）――農業資本家――農業労働者

このような経営を「三分割制」とよんでいます。

（1-5）

では，彼らはどのようにして生きのびたのか？

多くの農民は，農業資本家のもとに「農業労働者」としてとどまり，賃金生活を余儀なくされたのである。

(1-6) を配布し，
問題を読んだ。

予想分布
(ア) 1+1
(イ) 5
(ウ) 3

〔問　題〕 17世紀の農村では，家畜として羊や牛を飼っている家がたくさんありました。

でも，毎年秋の刈りいれのころになると，大部分の羊や牛が殺されてしまいました。

どうしてこのようなことがおきたと思いますか。

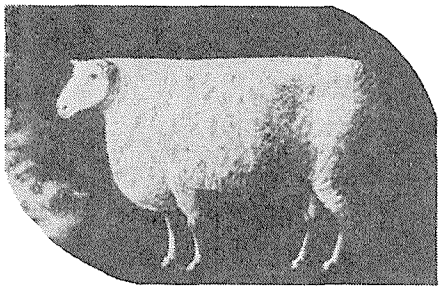
（予　想）

(ア) 冬の間の農民たちの食糧にするため殺した。

(イ) 冬を越すだけの飼料がまかなえないため，殺した。

(ウ) 肉をハムやソーセージに加工して都市へ売りに出し，冬を越すのに必要な現金を得るため殺した。

予　想



〔図Ⅰ-6〕

(1-6)

T：細川君が(ア)。ただ１人。どうして(ア)だと思った？

細川：㋐もし(イ)だったらね，エサ与えられなくて殺してしまっても，どうせ食うんでないかと思った。

T：あぁ，なるほど。(イ)だってどうせ食うんじゃないかっていう意味ね。坂口君はどうして(ウ)だと思った？　ハムやソーセージにして売りだす。

新井：坂口はもうけようとしているから。（笑い）

坂口：㋒ウーン。（しばらく間があって）なんとなく。

T：なんとなく。うん。小林さんは？

小林：ううん。迷って挙げなかった。でも，(ア)じゃないかなって思う。

T：じゃ(ア)は1人じゃなくて2人だ。どうして(ア)だと思った？
小林：むこう（イギリス）の冬，寒いの？
T：うーん。北海道みたいな寒さではないだろうけど，冬はやっぱり寒いと思うよ。
小林：寒いから肉たべる。（笑い）
T：寒いから肉たべる？　うーん。知里さんは(イ)かい。知里さんはどうして(イ)だと思ったの？
知里：㋑(ア)だったらね，そんなにね，牛や羊を殺さなくてもいいし，(ウ)だったらね，17世紀にね，ハムやソーセージに加工して，町に出すかどうかなって…。（教室が少しザワザワしている）
得永：そのころお金あった？
T：あぁ，貨幣はあったよ。今の（知里さんの）意見わかったかな。(ア)のね，食糧にするんだったらそんなにたくさん殺す必要ないんじゃないか，もし(ウ)であればね，17世紀だからね，ハムやソーセージに加工して，それをまた都市へ持って行って売るなんて時代的にどうかなって思ったっていうんだね。
新井：㋑（食べるんだったら）食べる分だけ，少しずつ毎日殺していけばいい。（笑い）
T：毎日殺していけばいいってかい？　今日はこの羊，明日はあの牛って殺すのかい？（生徒笑い）
得永：かわいそうだ！
T：なんだか殺伐とした感じだな。

……

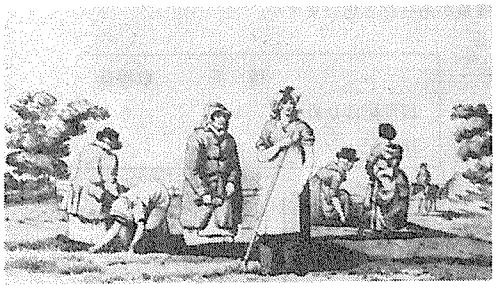
時間の都合で，このあと，特に理由のある生徒について意見を求めたが，意見が出てこなかったので，授業書（1-7）を配布した。
新井：あ，やっぱり(イ)だね。
坂口：いや，やっぱり(ウ)だね。（笑い）
T：はい，それじゃ授業書を読みます。

農業技術の進歩

イギリスでは12世紀ころから「三圃(さんぽ)農法」という方法がとられてきました。

このやり方は，耕地を三分割し，地味を回復させるために毎年３分の１の畑を休閑地とする，輪作でした。ですから，このような方法では，生産量を飛躍的に増大させるなどということは，ほとんど望めませんでした。

羊や牛を秋に殺すのは，冬の間，飼ってやれるだけの飼料がなかったからなのです。



〔図Ⅰ-7〕

ところが17世紀の後半ごろから，「ノーフォーク農法」とよばれる方法が普及しました。このやり方は，カブやクローバーなどを作ることによって，地味を低下させることなく耕作できるもので，もう休閑地をつくる必要はなくなりました。

みなさんは「根リュウ細菌」を知っていますか？

これは，クローバーのような豆科の植物に根につく細菌で，空気中のチッ素をとらえて，土壌にチッ素をもたらすものです。

化学肥料などない当時としては，クローバーが地味を肥やす役目をしたのです。ノーフォーク農法は土地生産力を向上させることを可能にしました。

このことにより，羊や牛は，秋になると殺されるという運命からやっと，のがれたのです。穀産と畜産を結合する「ノーフォーク農法」の普及は18C後半で地代をいっきょに９倍にもはね上げ，地主はますます資金が集まるようになったのです。

(1-7)

ここでは農業生産力の低くさの原因の一つである「三圃農法」について，板書によって補足説明を加えた。

さらにノーフォーク農法の有効性と，それに伴う地代の上昇についても若干補足説明を加えた。

3時間目　'83. 10. 13 実施　　欠席1名（門脇）
遅刻1名（藤沢）

前回までの授業内容の復習をしたのち，（1-8）を配布した。

（質　問1）

17世紀はじめごろ，種子1にたいする収穫量は6くらいでした。

ではノーフォーク農法が普及した18世紀では，種子1にたいして，どのくらいの収穫量があったと思いますか。

	種　子		収穫量
17世紀はじめ	1	:	6
18世紀	1		(　)

（質　問2）

冬の間の飼料が，より多く供給されるようになると，質の良い家畜を育てることが可能になりました。

18世紀を通じて，様々な品種の改良が行なわれ，家畜の平均重量も増大しました。さて，みなさんはどの程度増大したと思いますか。

下の表に数値を入れてみてください。

スミスフィールド市場(ロンドン)
の家畜平均重量(ポンド)

	1710年	1795年
雄　牛	370	(　)
子　牛	50	(　)
羊	38	(　)

※1ポンド≒450g

(1-8)

この部分は質問の形で，生徒に各々（　）内に数値を記入してもらった。
ほとんどの生徒が倍の数値をこたえた。

理由については，特に意見もなかったためすぐ（1-9）を配布して農業生産力の向上について確認してもらった。

（1-9）は次頁。

（質問１）と（質問２）のこたえは，次の通りです。

	種　子		収穫量
17世紀はじめ	1	:	6
18世紀	1	:	10

	1710年	1795年
雄　　牛	370	800
子　　牛	50	150
羊	38	80

穀物の収穫量がふえたり，また，家畜の重量がふえたりしたことは，当時，増加しつつあったイギリスの人口に食糧を供給するうえで，とても大切なことでした。

(1-9)

(1-10) では，「農業革命」を４点にわたってその主内容を示した。
次に問題を読み，生徒に予想させた。

この問題は，後の第4テーマとも関連するところである。

予想分布
(ア) 0
(イ) 7→6
(ウ) 0→1
(エ) 3

イギリス農業革命（17～18世紀）

イギリスの農村は17～18世紀の間に，大きく変化しました。

その第一は，「第二次囲い込み」などによって，大地主所有が成立したことです。（政治面）

第二は，「大地主―農業資本家―農業労働者」という，いわゆる「三分割制」が成立し，農業の資本主義化がすすんだことです。（経営面）

第三は，生産性の高い「ノーフォーク農法」が普及したことです。（技術面）

第四は，農機具がいろいろ改良され，しかも，それらが木製から鉄製に変っていったことです。

このような，農村での変化を農業革命」とよんでいます。

〔問　題〕 さて，「農業革命」を通じて高い地代を手に入れることができた大地主（貴族）は，そのお金を，おもにどのように活用したと思いますか。

（予　想）

(ア) もっぱら銀行にあずけて，利子をかせいだ。
(イ) 新たな土地を購入する資金にした。
(ウ) 運河建設などの輸送事業に投資した。
(エ) 金融業を営む資金にした。
(オ) その他

予　想

(1-10)

（予想をとった後，藤沢が入室して来る。）

T：はい，それじゃね，予想について少ない方から聞いてみるか。知里さん，(エ)の金融業を営む資金にしたということだけど，どうしてそう思ったの？

知里：㊀イギリスだったらね，土地があまりないのでね，お金があってもそんなに土地が買えないから…。

T：あぁ，土地が狭いから土地が買えない。だから金融業を営む資金にしたってかい？

新井：イギリスってそんなに狭いの？

T：どのくらいだろう？　はっきり判らないけど，たしか日本より面積は小さいんじゃないかな。

岡崎君はどう？
岡崎：㊀投資するより，すぐ金になる方がいいから。
T：能代谷君は？
能代谷：㊀なんとなく。
新井：こりゃ(ウ)か(エ)だなあ。（一人でつぶやく）
T：(ア)と(ウ)はいないね。じゃ(イ)の人に聞こうかな。残りみんなだね。
新井：あ，おれ(ウ)にする。
T：新井君(ウ)にするのかい？（予想(イ)→(ウ)へ変更）
新井：(イ)と(ウ)でまよったんだよな。
T：じゃ新井君に聞こう。(イ)か(ウ)でまよって(ウ)にしたっていったけど，どうしてそう思った？
新井：㋐(イ)はサ，土地を購入して，そこでまた人を雇って働かせればもうかるし，(ウ)の運河はサ，それを利用していろいろ取引きしてもうければいい。
T：うん。そうか。でも結局(ウ)にしたんだ。
小林さんは(イ)だけど，小林さんはどうして(イ)だと思ったの？
小林：㋑なんとなくそんなような気がしたんですけどね。
T：山本君どう？　山本君も(イ)だけど。
山本：㋑うーん。なんとなく。
T：長谷川は(イ)かい？　はい。
長谷川：㋑なんとなく。
T：あとどうかな。得永さん一言ありそうだな。どう？。
得永：㋑うーん。（しばらく沈黙）
T：あと意見ないかな。じゃ予想変更したい人いない？
（意見もでないので（1-11）を配布した，読んだ）

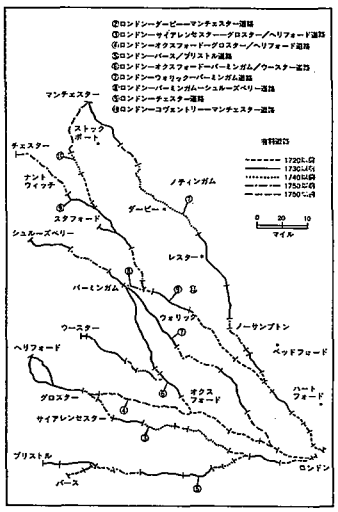
地主のお金はどこへ行ったか

地主や農業資本家の手もとに入る地代や，利潤は，「農業革命」を通じて著しく増加しました。

彼らは，手もとにあるお金を農業経営に投資したのをはじめ，農業以外の諸部門，とりわけ「有料道路」や「運河」や「港湾」といった輸送事業に投資をしました。

また，工業部門への投資もさかんで，初期の「鉄工場」はほとんどが地主や農業資本家によって建てられたものです。

一般に，18世紀の工場経営者には，農村出身の人が多かったといわれています。



（資料） W. Albert. *The Turnpike Road System in England, 1683-1840,* 1972
有料道路の発展（18世紀）

〔図Ⅰ-8〕

(1-11)

読んでいる途中に

新井：ほらな，(ウ)だべ。やっぱり。

ここではイギリスの道路が，ローマ時代以来ほとんど補修もされず，ガタガタの悪路であったことも補路説明した。

授業書の内容としては，"工業部門への投資"もさかんに行なわれていた点を生徒に強調した。

つづいて，「まとめのはなし」(1-12) を配布した。
ここでは農業革命がイギリス産業革命にとってどのような意味があったのかを確認させた。

まとめのはなし

農業の発展は，産業革命にとってどのような役割を果したのでしょうか。この点については，様々な説はありますが……

まず第一に，増加する人口に食糧を与えたということ，

第二に，地主，農業資本家の蓄積した利潤が，工業部門に投資されていったこと，

第三に，農機具・農業技術の改良によって，「鉄」の需要を増加したこと，

などがあげられるでしょう。

このように，直接，間接を問わず，イギリスの「農業革命」は，産業革命をおしすすめるうえで，大きな影響を与えたことはまぎれもない事実なのです。

(1-12)

4時間目　'83. 10. 13 実施　　欠席1名（門脇）

第2テーマの「農村工業の光と影」にはいる。

（2-1）を配布して読み，予想をとった。

予想分布
(ア) 5
(イ) 6

2 農村工業の光と影

〔問　題〕 イギリスの農村地帯では，長く家内工業として紡績と手織りがおこなわれていました。

18Cになって，紡績機（ジェニー紡績機，水力紡績機，ミュール紡績機）が次々に発明され，それにともなって紡績工程の機械化・工場制化がすすんできました。

さて，これら紡績機の発明によって，農村で家内工業を営んでいた人々の収入はどうなったと思いますか。

（予　想）

(ア) 収入は大幅に減った。

(イ) 収入は大幅に増えた。

予　想

どうしてそう思ったのか，理由があればだしあいましょう。

(2-1)

T：藤沢君，どうして(イ)だと思ったの？　大幅に増えた。

藤沢：①なんとなく。

T：得永さんは(ア)だね。どうしてそう思ったの？

得永：⑦機械化がすすんでいったら，家内工業なんかたちうちできないから。

新井：わかんないヨ。「手づくり」の良さっていうもんがあるんだから。（生徒爆笑）

T：（笑い）じゃ新井君はどっちなんだ？

新井：(ア)！（生徒爆笑）

T：やっぱり(ア)か。どうして(ア)だと思ったの？

新井：⑦うーん。やっぱり機械だと早いしさ…（笑い）。

T：細川君はどうかな。(イ)だね。増えたんだね。どうしてそう思ったの？

新井：手づくりの良さなんだろう。（笑い）

細川：⑦うん，それもあるけど，手織りの技術だって発達してきているんだから，仕事も増えて，収入は増えたことになる。

T：坂口君は(イ)だね。どうしてそう思った？

坂口：㋑なんとなく。

T：小林さんは㋐だね。

小林：㋐やっぱり機械化で大量生産できるんだから…，家内工業の方は収入が減るんじゃないかなって…。

T：山本君は㋑の〝増えた〟だけど，どうしてそう思ったの？

山本：㋑細川と同じ理由！

T：どうだろう，あと意見ないかな。予想変更したい人はいない？

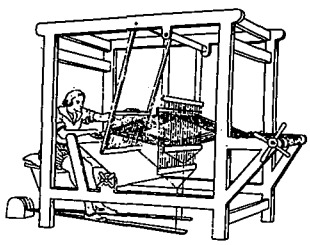
意見も出てこないので，(2-2) を配布し，読んだ。

「手織工の黄金時代」（1788～1803年）

17C～18Cにかけておこなわれていたイギリスの農村家内工業では，妻や子どもが糸を紡ぎ（紡績），夫が布を織るという家族労働がほとんどでした。

18Cにはいって，紡績工程が機械化されると，質のよい糸が大量に，すばやくできるようになり，妻や子どもの仕事は減っていきました。

しかし，当時の農村では，妻や子どもは生計の主たる担い手ではなかったので機械化による痛手は，それほどでもありませんでした。むしろ，機械化によって糸が過剰ぎみとなり，そのため手織工が不足して，他の職種よりも3～4倍の工賃で仕事ができたので，収入は以前より大幅に増えるという結果になったのです。



〔図II-1〕

(2-2)

(2-3) を配布して読み，予想をとった。

予想分布
(ア) 0
(イ) 1
(ウ) 2
(エ) 3
(オ) 4

〔問　題〕「手織工の黄金時代」といわれる時期をすぎると，工賃はどう変化したでしょう。
1798年の工賃を100として，30年後の1828年では，どのくらいになっていたと思いますか。

（予　想）
(ア) 150くらい（50%増）
(イ) 100くらい
(ウ) 70くらい（30%減）
(エ) 50くらい（50%減）
(オ) 20くらい（80%減）

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあいましょう。

(2-3)

ほとんどの生徒は収入が減っていると予想した。
その理由は〝なんとなく〟〝この程度の減少〟というものであった。
その中で(オ)の80%減を予想した生徒の主な意見は次のようなものであった。
知里：「黄金時代」からね，30年もたっているんだから，かなり減っていると思う。
新井：30年もたてば，もっといい機械ができているだろうから，かなり収入は減っている。
(1-3) でもそうであったが，数字の予想は，あまり生徒はのってこないようである。
(2-4) を配布して読みすすんだ。

職工の賃金のところでは，当時は月給制ではなく，週給制であったことを補足した。

手織工は，糸問屋から前貸しで糸を仕入れ，織った布をその問屋におさめるのが普通でした。

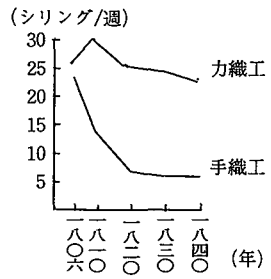
ところが，18C末にカートライトが「力織機」を発明して以来，織布工程もどんどん機械化されていくと，農村の家内工業には大きな痛手となりました。

手織工が一週間もかかるような仕事でも，機械は一日で織りあげてしまうのですから，手織工はたまったものではありません。

結局，手織工は家族を養い，生きのびるために低賃金でも働かなければなりませんでした。

手織工の収入は，下のグラフのように，30年くらいの間に80%も減ってしまいました。

職工の賃金



〔表Ⅱ-1〕

しかし，このような工賃の低下にもかかわらず，手織工の数はむしろ増加の傾向にありました。

手織工数の推移

年	1800	1810	1815	1820	1825	1830
万人	16	20	22	25	24	24

〔表Ⅱ-2〕

(2-4)

5時間目 '83. 10. 17 実施　　欠席なし

問題を読み，予想をとった。

予想分布

(ア)	0
(イ)	2
(ウ)	8
(エ)	0

〔問　題〕 低工賃にもかかわらず，手織工の数が減らなかったのはおもにどのような理由からだったと思いますか。

（予　想）

(ア) 手織工は工場勤めのきびしさを知って，力織工にならなかった。
(イ) 工場で働く力織工より，手織工の方がまだ賃金がよかった。
(ウ) 力織工になりたくても，勤める工場の数がたりなかった。
(エ) 不況で力織工がクビになり，みな手織工になった。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

(2-5)

（生徒数と分布数が一致しないのは，手をあげられなかった生徒がいたため。）
T：知里さんが(イ)だけど，どうしてそう思ったの？
知里：㋑工場主はね，工場で働く人たちの賃金はできるだけおさえたと思うのね…。
（残念なことに，彼女は2-4の表II-1を忘れてしまっている）
T：能代谷君はどうして(イ)だと思ったの？
能代谷：㋑なんとなく。
T：新井君が(ウ)だね。どうしてそう思った？
新井：㋒これが一番妥当だと思った。
T：得永さんも(ウ)だけど，どうしてそう思ったの？

得永：㋒うーん。特にね，理由っていうんじゃないけど，これが一番妥当だと思った。
新井：まねすんな！
T：小林さんも㋒だけど，どうしてそう思った？
小林：㋒時代的に，そんなに工場の数はなかったと思うのね。だから㋒にした。
T：藤沢君も㋒だけど，どうしてそう思ったの？
藤沢：うーん。（しばし沈黙）

その他，岡崎，門脇，長谷川，山本に指名したが，とくに理由は発言されなかった。

（2-6）を配布して読んだ。

表についてはかなりていねいに解説を加えた。

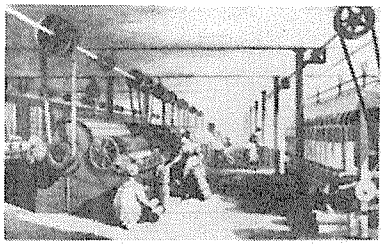
家族労働と工場労働

当時の農村の手織工は，「家族労働」という生産活動に長い間慣れ親しんでいたため，家族と切り離される「工場労働」を極力きらいました。（答ア）

家族労働と工場労働を比較してみましょう。

手　織　工	力　織　工
家族労働である。	工場労働である。
家族全員が自宅で就業できる	家族から切り離されて，工場で働かなくてはならない。
道具（生産手段）は自分の所有である。	道具（生産手段）は資本家＝工場主の所有である。
できあがった製品は自分のものである。	できあがった製品は資本家＝工場主のものである。
労働する日を自由に計画することができ，しかも自分自身の自由意志にもとづき，自覚的に作業できる。	労働は強制的であり，自分の意志とは無関係に作業する。

多くの手織工たちは，力織工になったが収入がいいことはわかっていました。しかし，手織工たちは家族労働の"利点"を自らすてるようなことはせず，低賃金でも，あえて手織工にとどまったのです。



織物工場　カートライトの力織機発明後，まもなく建設された機械織物工場の内部。

〔図II-2〕

（2-6）

この授業書は，（5-17）の"生産手段をもたない「労働者」"とのつながりを考慮して作成した。

次に（2-7）を配布し，第２テーマ「農村工業の光と影」のまとめとした。

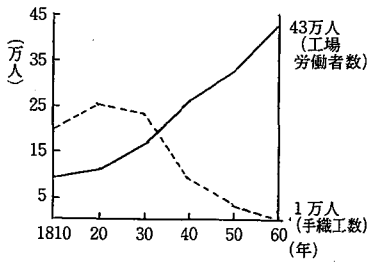
機械制大工業の拡大と家内工業の残存

イギリスは他国に先がけ，産業革命をなし遂げ，機械制大工業を確立してきました。

しかし，イギリスのすべての産業が，順調に，いっきょに工場制へ移行できたわけではありません。

イギリスの産業革命は，通常1830年ごろをもって終了するといわれていますが，それは，あくまでも主要な産業部門についてのみいわれていることであり，家内工業的な形態は1830年以降も，かなりの期間残存していたのです。

そのことを綿織物業における手織工数と，工場労働者数の変化を例にみてみましょう。



〔表Ⅱ-3〕

グラフをみてわかるように，工場労働者の数は1830年すぎころから手織工の数を上まわり，年々増加していきました。

このようななかで，手織工たちは低賃金を唯一の武器として，力織機との競争にたえていたのです。

（2-7）

6時間目　'83. 10. 20実施　　欠席1名（得永）

予想分布
(ア) 0
(イ) 7
(ウ) 3
(エ) 1

3 都市の形成

〔問　題〕 18C～19Cにかけてのイギリスでは，人口の都市集中があり北西部を中心に多くの工業都市ができました。

18C半ばのイギリス（スコットランドを除く）の人口は，およそ600万人でした。では，19C半ばごろ（1840年），イギリスの人口はどのくらいになったと思いますか。

（予　想）
(ア) およそ700万人
(イ) およそ1,000万人
(ウ) およそ1,600万人
(エ) およそ2,400万人

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあいましょう。

(3-1)

T：じゃあ理由を聞いてみるかな。新井君が(イ)のおよそ1000万人。
新井：㋑だいたいこのへんだな。（笑い）
T：細川君が(エ)の2400万人。約4倍だね。どうしてそう思った？
細川：㋓うん，工業都市がたくさんできてただろうからね，人口もたくさん増えたと思う。
T：門脇君は(イ)だね。どうしてそう思った？
門脇：㋑人口の伸び率からいけば，だいたい2倍くらいなもんじゃないかな。
T：知里さんは(ウ)だね。どうしてそう思った？

知里：㋒100年くらいたっているからね，人口も倍以上だとは思う。

T：うん，山本君は㋑だね。

山本：㋑ちょうど区切りのいいところで1000万。

T：うーん。数値の予想はちょっとむずかしいかもしれないね。小林さんも㋑だね。どうしてそう思ったの？

小林：㋑うーん。まぁ400万人ぐらい増えたんじゃないのかな。

※　このあと同様に生徒に聞いていったが，特に理由のある生徒もなく，討論もおこらなかったので深入りせずに，(3-2) を配布し，読んだ。

ここでは表Ⅲ-1から1801～1851年の増加がかなり急激であることを確認した。

また，農村部に住んでいた人々の比率が75%であったことから，第一次産業の人口比が高かった点も確認しつつ，［問題］を読み，予想をとった。

予想分布

㋐　1

㋑　3

㋒　6

㋓　1

イギリスの人口は，右の表をみてもわかるように，18世紀にはいって増えはじめ，19世紀には爆発的に人口が増加しています。

（答はウ）

イギリスの1700年ごろの人口は，およそ550～580万人ほどでした。

そのうち，農村部に住んでいた人々の比率は，全体の75%でした。

〔問　題〕

さて，1800年の総人口はおよそ920万人でしたが，このころ，農村部には総人口の何パーセントぐらいの人々が住んでいたと思いますか。

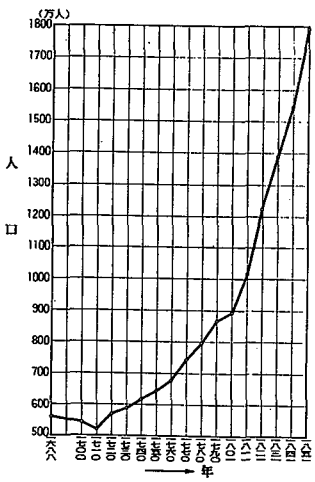
（予　想）

㋐　60%くらい。

㋑　40%くらい。

㋒　20%くらい。

㋓　5%くらい。



イングランドおよびウェールズの人口
正規の人口調査は1801年に始まり，10年ごとにおこなわれた。それ以前の数字は厳密な信頼度は少なく，大勢を知るにとどまる。

〔表Ⅲ-1〕

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

(3-2)

T：㈡の5%くらいというのは2人。細川君と新井君だね。5%というと，かなり少ないけど，細川君，どうして㈡だと思った？

細川：あぁ，ちょっと問題の意味まちがっちゃった。㈠にする。

T：㈠ね。じゃ細川君，どうして㈠の60%くらいと思った？

細川：㋐日本でもそうだったけど，産業が発達したっていっても，やっぱり農業の方が人口が多かったと思う。

T：新井君は㈡だね。5%。どうしてそう思った？

新井：㋑昔はサ，6，70%いたかもしれないけど，やっぱり，かなり減ってるんじゃないの。

T：小林さんは㈠の4%くらいだね。

小林：㋑うーん。やっぱりね半分は切っていると思うしね…。

T：坂口君も㈠だね。

坂口：なんとなく。

T：能代谷君も㈠だね。どうしてそう思った？

能代谷：㋑だいたい。

T：門脇君は㈢だね。

門脇：㋒こんなもんじゃないの。

T：岡崎君も㈢だけど，どうしてそう思った？

岡崎：㋒特に理由はない。

T：藤沢君も㈢だね。どうしてそう思った？

藤沢：㋒グラフを見るとね，かなり急激に増えてるでしょ。増えたのは都市で増えたんで，農村で増えたんじゃないと思う。

T：知里さん㈢だったね。

知里：㋒うーん，時期としてはね，都市部で生活する人が増えていった時期じゃないかなって思って。

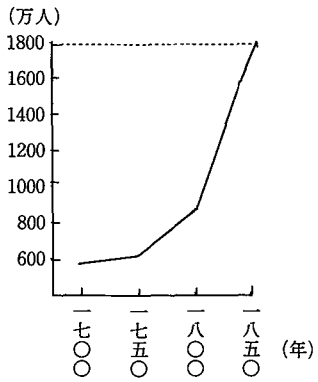
T：あとどうだろう。特にいいたいことある人いないかな。
予想を変更したい人は？

特に意見もなかったので（3-3）を配布し，読んだ。

(3-3) では，最近の有力な研究資料として表Ⅲ-2 の人口推移をグラフと表で示しつつ，表Ⅲ-3 では，1760～1800 年の間に人口比が逆転していることを確認した。

〔表Ⅲ-1〕でも述べたように，イギリスの人口調査は1801年に初めて行なわれたため，それ以前の人口数はほとんど推定です。

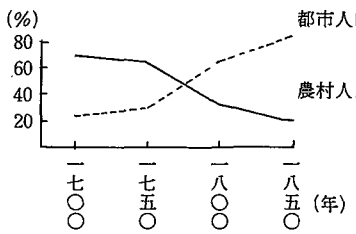
しかし，最近の研究では，次のような人口統計が有効になってきています。



年	万人
1687	550
1700	580
1750	610
1770	710
1790	820
1800	920
1831	1405
1841	1590
1851	1800

〔表Ⅲ-2〕

一方，農村人口比の移り変わりについてもいろいろ説はありますが，次のような研究資料が有力です。（答はイ）



年	%
1700	75
1760	70
1800	36
1830	25
1850	22

〔表Ⅲ-3〕

(3-3)

（3-4）のはじめの部分では，主な新興都市の人口増加の様子を表にして示した。

予想分布
(ア) 3
(イ) 0→①
(ウ) 7

さて，産業の発展は，イギリス国内にいくつもの新興都市を出現させました。次の表にある各都市の人口推移をみると，その増加ぶりがうかがえます。

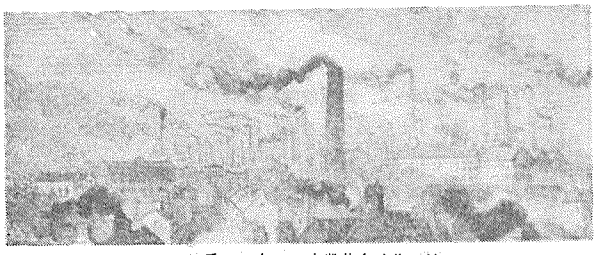
	1801	'11	'21	'31	'41	'51	1861
リヴァプール	8.2	10.4	13.8	20.2	28.6	37.6	49.4
マンチェスター	7.5	8.9	12.6	18.2	23.5	30.3	46.0
バーミンガム	7.1	8.3	10.2	14.4	18.3	23.3	29.6

〔表Ⅲ-4〕　（単位：万人）

〔問　題〕 新しく形成された工業都市（リヴァプールやマンチェスター etc）では，今まで見られなかった黒い羽根の「ガ」が飛ぶようになりました。どうしてそうなったと思いますか。

（予　想）
(ア) 工場からはき出されるばい煙で，「ガ」が黒くなった。
(イ) 突然変異で黒い「ガ」があらわれ，それが増えた。
(ウ) 外国からの輸入品に付着していた黒い「ガ」の卵がかえり，それが異常発生した。

予　想



マンチェスター　産業革命時代に綿工業を中心とする新興工業都市として大発展した。

〔図Ⅲ-1〕

（3-4）

T：新井君はどうして(ア)だと思ったの？
新井：㋐単純に考えてねばい煙で黒くなった。ここに絵がでてるしょ。（笑い）
T：なるほど，細川君はどうして(ア)だと思った？
細川：㋐新井と同じ意見。
T：知里さんはどうして(ア)だと思った。
知里：㋐今日の授業がね，「工業都市」っていうんだからね，工場に関係があると思って…。
T：坂口君は(ウ)だね。どうしてそう思った？
坂口：㋒なんとなく。
T：山本君も(ウ)だね。

山本：㋒もし(ア)だったらね，工場からはきだされるばい煙で黒くなるんだから，ほかの「ガ」だってみんな黒くなるでしょ。だから，(ア)じゃなくて(ウ)さ。

新井：ずいぶん反抗的だな。（笑い）いかにも俺が単純みたいだべゃ。（爆笑）

T：長谷川さんも(ウ)だけど，どうしてそう思った。

長谷川：㋒うーん。…なんとなく。

T：門脇君はどうかな。

門脇：㋒なんとなく。

T：藤沢君も(ウ)だね。どうしてそう思った。

藤沢：㋒なんとなく。

T：能代谷君も(ウ)だね。

能代谷：㋒なんとなく。

T：あと何か理由のある人いないかな。

小林：㋒私はね，輸入の木材なんかについて来たんじゃないかって思ったんだけど…。

T：あぁ，なるほどね。うん，岡崎君ははじめ手をあげなかったよね。今はどうだい。

岡崎：㋑うーん。だれもいないから(イ)にするかな。特に理由はないけどサ。

T：あとほかに意見ない？　じゃ予想変更したい人は？

（3-5）を配布し，読んだ。図III-2 では農村の黒いガと都市の黒いガの目立ち方の程度を確認して，授業を終えた。

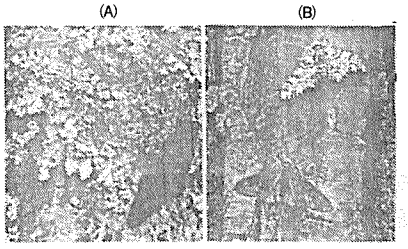
黒くなった「ガ」の話……工業黒化

石炭をたいて，蒸気機関を動かす工場，その工場が林立する都市ができると，黒い「ガ」がふえるのはなぜでしょうか。それは，次のようなしくみによるのです。

「突然変異」といって，生物の世界では親の特徴とちがう子が生れることがよくあります。普通の「ガ」から黒い「ガ」が生れるのも突然変異のひとつで，工業都市ができる前から，時々みられる現象でした。自然にかこまれた明るい農村では，黒い「ガ」は目立ちますから，黒い「ガ」が生れても，たいていは鳥に食べられてしまって，農村ではふえていくことがないのです。

ところが，工業都市ではばい煙のため，あたりの景色が黒ずんでくるため，黒い色の方が逆に目立たなくなります。そのため，突然変異で生れた黒い「ガ」が子孫を残し，工業都市にはたくさんの黒い「ガ」が住むようになったというわけです。

これを「工業黒化」とよんでいます。



農村の白い「ガ」と黒い「ガ」　　都市の白い「ガ」と黒い「ガ」

〔図III-2〕

（3-5）

7時間目　'83. 10. 24 実施　　欠席2名（新井，藤沢）

（3-6）を配布し，予想をとった。

T：細川君はどうして(ア)だと思ったの。

細川：㋐中国の映画みた時，地下が倉庫だった。

T：中国の映画。この問題はイギリスだけど（笑い）

細川：どこも同じようなもんだと思うな。

T：(イ)の自家製のワインという人が2人。知里さんはどうして(イ)だと思った。

知里：㋑地下室は涼しいからね，ワインつくるのにいいんじゃないかなって（笑い）

T：得永さんも(イ)だね。どうしてそう思った。

予想分布

(ア)	1
(イ)	2
(ウ)	0
(エ)	5

〔問　題〕 産業革命のはじめごろのことです。ランカシャーやヨークシャなどの工業都市では，「地下室」をもった住宅が多く建てられました。さて，この地下室は何に使われたと思いますか。

（予　想）

(ア) 野菜などを保存する倉庫として使われていた。

(イ) 自家製ワインをつくる仕事場として使われていた。

(ウ) 手織工の仕事場として使われていた。

(エ) 工場労働者の住宅として使われていた。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

(3-6)

得永：㋑イギリスなんかでは，よくワイン飲むんでしょ。だから。それに「トムとジェリー」のマンガにね，「樽」がよくでてくるから。（笑い）

T：㋓は5人いるけど，山本君はどうして㋓の住宅だと思った。

山本：㋔なんとなく。

※　坂口，小林，能代谷は㋓を予想したが，特に理由はなかった。

T：長谷川さんも㋓だね。どうしてそう思ったの。

長谷川：㋔最近，北海道でも地下室つきの家が増えてきてるでしょ。昔は住宅につかわれたんじゃないかな。

（だれかが，「地下室は車庫に使うべゃ」）

T：あとどうかな。意見ない？　予想変更したい人はいない。

（3-7）を配布した。

長谷川：あぁ，やっぱり「地下室住宅だ」だ。

T：こたえを先に言うとね，㋒なんだよね。（「エーッ」という声）

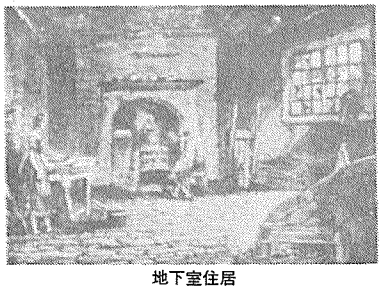
産業革命の初期には，その地下室は，手織工の仕事場として使われていました。彼らは，農村から糸を求めて都市に移ってきました。そのとき，都市にでてきた彼らのために，織機をおくことのできる地下室つきの住宅が建てられたのです。

このような住宅は，ランカシャーやヨークシャだけではなく，ロンドンやリヴァプールにも多くありました。

しかしその後，産業革命が進行するなかで，手織工が力織機との競争に負け，その数が減少したとき住宅難にあえぐ労働者のために，地下室だけが，独立の住宅として使われるようになったのです。

地下室は，排水や換気が悪く，また，明りも充分はいらず，冬などは暖炉もないという，住宅としてはきわめて劣悪なものでした。

さすがにリヴァプール市当局は，地下室住宅のひどさをみるにみかねて，1844年には，暖炉と窓のない地下室を禁止し，地下室の天井の高さも7フィート（2.1m）より低くすることを禁じました。



地下室住居

〔図Ⅲ-3〕

（3-7）

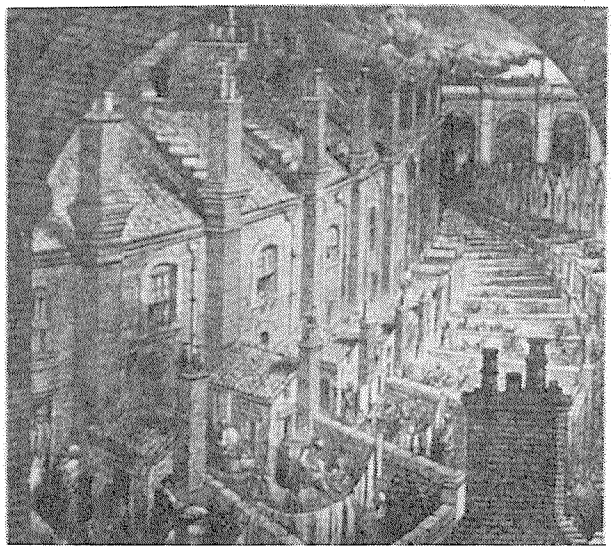
（3-7）を読みおわったあと…

T：(エ)という答もあながち間違いではないんだけど，問題では〝産業革命のはじめごろ〟という条件つきだから(ウ)なんだね。農村で手織りをやっていた人は，都市に出てきても，やっぱり慣れた手織りの仕事しかできなかったんだろうね。

（3-8）を配布し，予想をとった。

予想分布
(ア) 2
(イ) 5
(ウ) 1

リヴァプールやマンチェスターなどの新興の工業都市は，巨大な「スラム」の集合でした。というのは，都市への人口移入が短期間になされたため，住宅難がおこり，そのため，工場のまわりに急ごしらえの粗末なバラック住宅が，どんどん建てられたからなのです。



工場地区の住宅街
〔図Ⅲ-4〕

〔問　題〕 労働者の各家庭には，便所はなく何軒かで共同便所を使っていました。さて，マンチェスターなどでは，何軒で1つの便所を使っていたと思いますか。

（予　想）
(ア) 10軒でひとつの便所。
(イ) 20軒でひとつの便所。
(ウ) 50軒でひとつの便所。

予　想

（3-8）

T：またまた数値の問題だけど，何か理由があるかな。得永さんが㈠だね。どうしてそう思ったの。

得永：㈠うーん。特にないんだけど…。

※　他の生徒にも聞いたが，特に理由はでてこなかった。

（3-9）を配布して読んだ。

この中で，平均家族数が6～8人であったので，130～170人で1つの便所をつかっていたことになる点を話すと，あちらこちらから「うわぁ，ひでえなぁ」「汚ねえな」の声があがった。

当時のマンチェスターでは，22軒でひとつの便所を共同で使っていたという記録があります。

労働者1世帯あたりの家族数は，だいたい6～8人でしたから，ひとつの便所を130～170人で使っていたことになります。

水洗もなかった時代ですから，悪臭が労働者の長屋全体にたちこめるため，彼らは，窓をしめきり，ドアのカギ穴にはボロきれをつめ込んで，悪臭の侵入を防いでいたのです。

（3-9）

（3-10）を配布して読んだ。

当時は汚物を河川などにたれ流していたことや，その河川の水で衣服の洗たくなどをしていたことを補足説明して終了した。

まとめのはなし

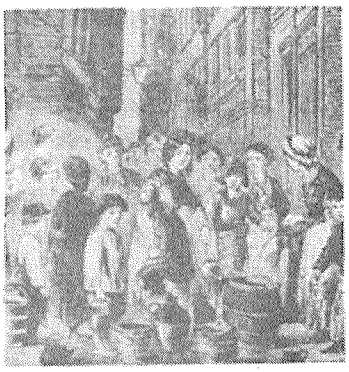
都市の環境は，労働者にとっては，それはひどいものでした。

暗くて，じめじめした地下室の住宅，汚水や悪臭がたちこめる長屋，暖炉もない，寒々とした部屋……どれひとつとっても，およそ人間が生活できるような住宅ではありませんでした。

こんなこともありました。都市では，水を使うにも給水時間を決めているところが多く，1840年前後のリヴァプールでは1日おきに1～2時間，マンチェスターでは多少よくて1日に1～4時間という具合で料理も洗たくも自由にできる状態ではありませんでした。

この給水状態は，ロンドンのクラーケンウエル地区がもっともひどく，1863年で，1日にわずか20分しか給水されていませんでした。

結局，労働者は近くを流れている川の水をくんできては，料理や飲料水に使わざるをえなかったのです。



共同水道栓
〔図Ⅲ-5〕

多くの人口をのみ込んだ新興の都市は，産業や商業の発展を背景に益々大きくなっていきました。

しかし，その発展，華やかさとは逆に労働者の生活環境は日ごとにその劣悪さを増していったといえるでしょう。

（3-10）

8時間目　'83. 10. 24 実施　　欠席2名（新井，藤沢）

本時より第4テーマの「産業資本の蓄積」にはいる。

ここでは，イギリス産業革命をおしすすめるうえで重要な役割を果した〝資本の創出〟について学ぶ。

また，資本キお金という点も理解させたい。

（4-1）を配布し，予想をとった。

予想分布

(ア) 0

(イ) 0

(ウ) 3→④

(エ) 6→⑤

(オ) 1

4　産業資本の蓄積

〔問　題〕 リヴァプールは貿易で栄えた都市です。18世紀も後半のころ，リヴァプール市庁や赤レンガ造りの税関には，リヴァプールを象徴する，あるものが飾られていたあるものとは，何だったと思いますか。

（予　想）

(ア) 国王の像

(イ) ダイヤモンドの原石

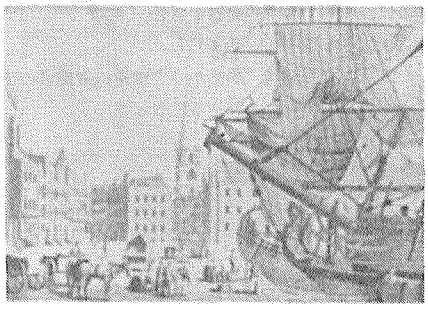
(ウ) 黒人の頭像

(エ) 蒸気機関車の模型

(オ) 羊のはく製

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしてみましょう。



1821年のリヴァプール　旧ドックと税関付近。人口約14万，イングランド第二の都市である。1世紀半の間に見ちがえるほど大きく発展したが，その原動力は商業であった。

〔図Ⅳ-1〕

（4-1）

T：さて，門脇君はどうして(オ)の羊のはく製だと思った？
門脇：㋔なんとなく。羊がたくさんいそうだったから。
T：山本君は(ウ)の黒人の頭像だね。どうして(ウ)だと思ったの？
山本：㋒「国王の像」なら一般的だし，「ダイヤモンドの原石」ならバットしないし…（笑い）だから…。
T：坂口君はどうして(ウ)だと思ったのかな？
坂口：㋒（小さい声で）知るか！
T：能代谷君も(ウ)だね。どうしてそう思った。
能代谷：㋒なんとなく，てきとうに。
細川：お前バカじゃねえか。てきとうなんか挙げるな！
※　この日のB組はいつもと雰囲気がちがい全体にトゲトゲしく感じられた。
普段は騒がしいが，授業をもりあげてくれる新井が休んでいるのも一因か？
T：えーと。あと残りの人が(エ)の蒸気機関車の模型なんだけど，小林さんはどうして(エ)と思ったの？
小林：㋓産業革命のはじまりだからね，やっぱり〝蒸気機関〟じゃないかなって思った。
細川：（大きな声で）そうなんだ！（笑い）
T：細川君も同じような理由かな。
細川：㋓うん。
T：知里さんも(エ)だね。知里さんはどうして(エ)だと思った？
知里：㋓うん，やっぱりね，蒸気機関車が走っていたと思うの。
T：得永さんはどう？
得永：㋓わたしもそう思う。
T：岡崎君はどう？
岡崎：㋓特にない。
T：うーん。じゃ他に意見ないかな。……それじゃ予想変更したい人はいない？　ハイ，小林さん。
小林：㋔わたし(エ)から(オ)に変更します。
T：小林さんが(エ)から(オ)に変更。
細川：理由聞かなきゃ。
T：どうして(オ)にしたの？
小林：イギリスって，わりに羊が多いから…
門脇：あ，それぼくが言ったんだよ（笑い）
小林：それにね，貿易なんかに羊が使われたんしゃないかなって思った。
（4-2）を配布。

奴隷貿易で栄えたリヴァプール

市庁や税関に飾られていたのは，「黒人の頭像」でした。

これは一体なにを意味しているのでしょうか？

実は，これはリヴァプールが「奴隷貿易」の根拠地であり，それによって富をつくりあげたというしるしなのです。

この黒人奴隷はアフリカからつれてこられました。奴隷貿易は，15世紀からスペインやポルトガルが行なっていましたが，18世紀以後は，ほとんど独占的にイギリスがその貿易権をにぎりました。

イギリスの奴隷貿易の中心になったのは，「王立アフリカ会社」といわれる会社でした。これは1660年に設立され，その後1672年に改組されました。

名前が示すとおり，国王から特許状をもらってつくられた会社で，その総裁には国王のジェームズ2世（1633～1701：在位1685～88）がなったこともあり，まさに，奴隷貿易は国家的事業としてスタートしたといえます。

18世紀のはじめごろは，ブリストルという港町が奴隷貿易の中心として栄えていましたが，18世紀半ばから18世紀末の間に，リヴァプールの商人が，その奴隷貿易の85％以上を掌中に収め，ばく大な富を築きあげました。

(4-2)

授業書を手にした生徒の口々から「エッ！」とか「黒人の頭像だってよ！」など，驚きの声がしきりに聞こえてくる。

読み終ったのち，地図でリヴァプールやブリストルを確認し，(4-3) を配布した。

予想分布
(ア) 2
(イ) 2
(ウ) 6

〔問　題〕 イギリス人は，貿易に必要な大量の黒人奴隷を，どのようにしてあつめたと思いますか。

（予　想）
(ア) イギリスから持ってきた武器で脅かして，黒人をあつめた。
(イ) 黒人の部族同士の戦争をけしかけて両部族の力を弱くさせ，そのすきに襲って黒人を捕えた。
(ウ) 黒人の部族同士の戦争をけしかけて，その戦争で捕りょになった黒人を買い取った。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしてみましょう。

(4-3)

T：じゃあ，ちょっと理由を聞くかな。
　長谷川さんは(ア)の武器でおどかしてっていうんだけど，どうしてそう思った？
長谷川：㋐なんとなくね，イギリス人は黒人にたいして冷めたかっただろうしね，だから武器でおどかして…。
T：小林さんはどうして(ア)だと思ったの？
小林：㋐うーん。(イ)のような気もするんだけど，やっぱり武器には弱いんじゃないかなって思って…。
T：得永さんは(イ)だけど，どうして(イ)だと思ったのかな？
得永：㋑うーん。奴隷だからね，わざわざお金だしてまで買うことはしないと思う。

T：能代谷君はどうして(イ)だと思った？
能代谷：㋑てきとうに。
細川：お前いいかげんにしろ！　ちゃんとまじめに答えろ！
T：それじゃ細川君。細川君は(ウ)だけれども，どうしてそう思ったの？
細川：㋒映画でやっていた！
T：うん？　何の映画？
細川：何ったっけ？（誰かが「ルーツ！」）そうそう，ルーツ，ルーツ！
T：「ルーツ」って見たかい？　何年か前にＴＶでやってたやつだね。みんなは中学生だったかな。
　岡崎君はどう？　岡崎君も(ウ)だけど。
岡崎：㋒なんとなく。
T：坂口君はどうだい？　坂口君も(ウ)だね。
坂口：㋒てきとうだ。
T：知里さんはどうして(ウ)だと思ったの？
知里：㋒あのね，(ア)や(イ)だったらね，大量の黒人をあつめるんだから，武器でおどしたり，おそったりしたら，こちら（イギリス人）もやられるから…。
T：あぁ，大量の黒人をあつめるんだから，(ア)や(イ)だったらイギリス人も被害をうけて傷つくから，そういうことはしないっていうんだね。
知里：そう！
T：あとどうだろう，門脇君も(ウ)だね。どうしてそう思った？
門脇：㋒「ルーツ」で観た。
T：「ルーツ」で観た。あとどうかな。何か意見ないかな？
　…じゃ，予想変更したい人は？　いないかい？
　※　4年Ａ組の授業では，(ウ)を予想した生徒が次のようなことを述べている。
　「ロシア人だったら(イ)のように両方たたかわせて，弱ったところを襲うだろうけど，イギリス人だから，ロシア人みたいにせこくないから，金だして買ったと思う」

Ａ組の生徒の発言にたいして，まわりから「うん，そうだな」と同調の声が2，3聞かれた。社会主義国に対する偏見（暗いイメージ）が生徒のなかにも根強くあるようである。

（4-4）を配布し，読んだ。

T：では読みます。答は(ウ)です。

奴隷狩り

奴隷船は，まず毛織物や綿布金属製品，火薬，武器，ラム酒，タバコ，砂糖などを積んで，イギリスの港を出発します。

目的地はアフリカ西部の黄金海岸とよばれるところですが，ここには，王立アフリカ会社の城があり，商館をおいて，200人余りの駐在員を常駐させていました。

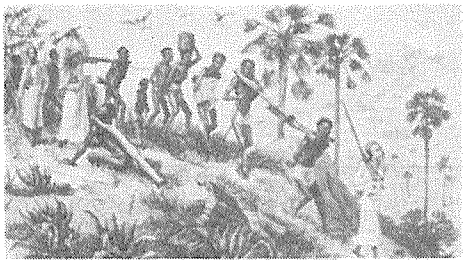
船が目的地に着くと奴隷狩りがはじまります。しかし，イギリス人が直接上陸して黒人を追いかけまわすということは，めったにありません。

そんなやり方では，地理にくわしい黒人をつかまえることは，とうていできないのです。

いちばんよく用いられた方法は，黒人の部族同士を戦争させ，その戦争の捕りょを族長から買いとることでした。奴隷船に積み込まれた火薬や武器は，そういう戦争をけしかけるための道具だったのです。

戦争のないときには，黒人はなかなかつかまりません。そんな時は，プロの人さらいを利用しました。

こうして，平和な生活をおくっていた黒人の部落に，とつぜん戦争や人さらいが襲ってきました。つかまった黒人は鎖でしばられ，何人もつながれて，まるで動物のようにオリに入れられ，海岸からボートに乗せられて沖合の奴隷船に運ばれていくのでした。



アフリカの奴隷狩り
〔図IV-2〕

（4-4）

読み終えた後，（4-5）を配布し，質問の予想を聞いた。

（質　問）　つかまった黒人奴隷は，船で運ばれていくとき，船内では主にどのような姿勢でいたと思いますか。

（予　想）

㈠　ひざを折りまげて，小さくなって並んでいた。

㈡　ほとんど立ちっぱなしで並んでいた。

㈢　足をまっすぐのばしたまま，横たわって並んでいた。

予想

予想分布

㈠　3

㈡　6

㈢　1

(4-5)

T：岡崎君が㈢だけどどうしてそう思ったのかな？

岡崎：㋒うーん。特にない。

T：細川君は㈡だね。

細川：㋑奴隷は買ったもんでしょう。買ったもんなんだから，立たせておいたっていいんじゃないの。

立たせておけばサ，たくさん（奴隷を）積めるから…。

T：長谷川さんは㈡だね。どうしてそう思ったの？

長谷川：㋑奴隷だから，すわらせてもらえなかったんじゃないかと思ったの。

T：小林さんは㈠だね。どうしてそう思ったの？

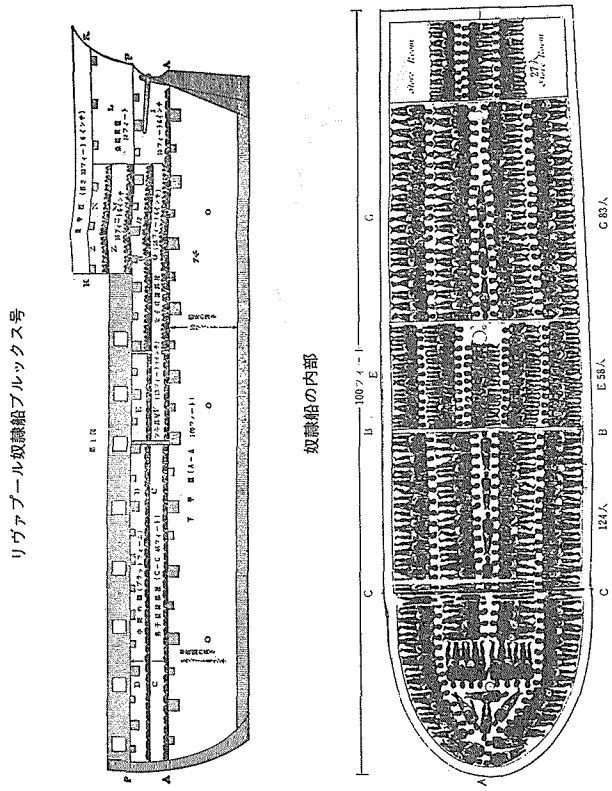
小林：㋐うーん。㈠か㈡か，まよったんだけど…。うーん，奴隷だから，すわらせてもらえなかったかもしれないし，よくわからない。㈡かもしれない。

T：知里さんは㈡だね。どうしてそう思ったの？

知里：㋑立たせておくと，たくさん積めるでしょ。
小林：あのね，奴隷は鉄のおもりや鎖をつけていたの？
T：うん。つけられていたよ。
小林：じゃ立ちっぱなしでなくていいんだ。やっぱり(ア)だ。
T：門脇君はどう？　(イ)だね。
門脇：㋑特にない。
T：あと他に，何か意見ないかな？
（4-6）を配布
※　生徒は黒人奴隷がびっしり積みこまれている事に驚きをあらわした。

すし詰めの奴隷船

奴隷船の中では，下の絵のように横たわった状態で運ばれました。
天井は低く，黒人たちは立錐の余地もないくらい，ぎっしり並べられていました。しかも，船内のドアは閉めきったままだったので，空気が汚れ，病気になって死ぬ黒人も多数でました，



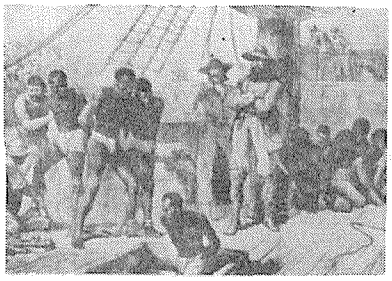
（4-6）

［図IV-4］では，292人の奴隷がいることを確めると，「ワァ，すごい！」「ひでえな！」という声があちこちから聞えてきた。

（4-7）を配布し，予想をとった。

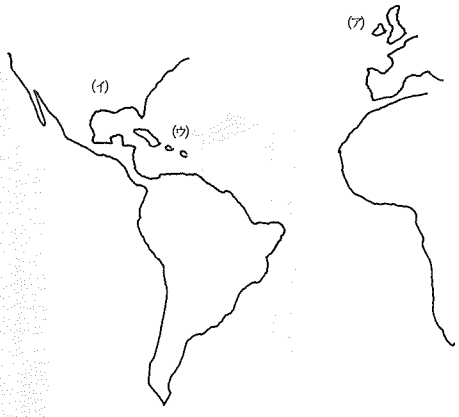
予想分布
(ア)　1
(イ)　5
(ウ)　4

〔問　題〕
18世紀を通じて，アフリカで捕えられた黒人が，一番多く売られて行ったところはどこだと思いますか。



奴隷船　奴隷商人によって奴隷船に積みこまれるアフリカの黒人たち，逃げないように足に鎖をつけられ，船底に押しこめられた。

〔図IV-5〕



（予　想）
(ア)　イギリス本国
(イ)　北アメリカ南部
(ウ)　西インド諸島（カリブ海諸島）

予　想

（4-7）

T：小林さんが(ア)のイギリス本国だけど，どうしてそう思ったのかな？

小林：㋐（しばらく考えてから）うーん，なんとなくね…，イギリスへ行ったんじゃないかって…。

T：知里さんは(イ)の北アメリカ南部だね。どうしてそう思った？

知里：㋑アメリカに連れて行ってね，開拓とかにね，使ったんじゃないかと思う。

T：細川君は(ウ)のカリブ海諸島だね。どうしてそう思った？

細川：㋒奴隷はさ，病気もってるからさ，大陸なんかに連れて行ったら病気が広がるしょ。だから島へ連れて行ったと思う。

T：門脇君は(イ)だね。どうしてそう思った？

門脇：㋑知里さんと同じ。

T：あぁ，開拓に使ったってかい？　得永さんも(イ)だね。

得永：㋑わたしも知里さんと同じ。

T：長谷川さんは(ウ)だね。どうしてカリブ海諸島だと思った？

長谷川：㋒あのあたりの人って，黒人に似てるでしょ。だから。

T：岡崎君も(ウ)だね。どうしてそう思った？

岡崎：㋒こんなもんじゃないかな。

T：山本君は(イ)だね。どうしてそう思ったの？

山本：㋑島国だったら，奴隷の数が制限されるしょ。(ア)のイギリスも(ウ)のカリブ海も島だから，(イ)のアメリカにした。

T：なるほど。能代谷君は(ウ)だね。どうしてそう思った？

能代谷：㋒なんとなく。

T：坂口君はどうかな，(イ)だね。

坂口：㋑特にない。「北アメリカ南部」っていうのがカッコイイ。（笑い）

T：あとどうだろう，何か意見ないかな？……。

予想を変更したい人はいない？

（4-8）を配布した。

黒人奴隷はカリブの島へ

アフリカの黒人奴隷の行き先は，北アメリカ，西インド（カリブ海）諸島，ブラジル，ヨーロッパ諸国など，各方面にわたっていましたが，1701年から1800年の100年間を通じて，いちばん多くつれていかれたのは，西インド（カリブ海）諸島でした。

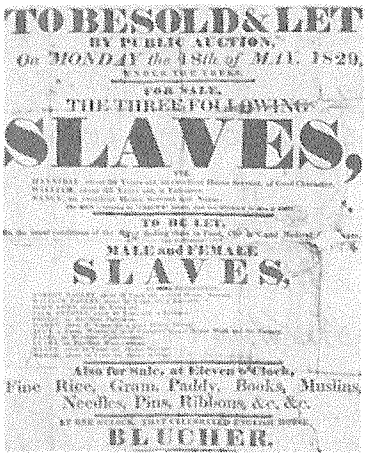
次の数字をみてください。

イギリス領北アメリカ……	34万8,000人
西インド（カリブ海）諸島……	323万4,000人

この数字は18世紀中だけの数字であり，しかも，生きて上陸できた黒人の推定数です。ですから，実際にアフリカから船に積み込まれた黒人の数はもっともっと多かったにちがいありません。

奴隷貿易は15～19世紀にかけて，約400年間も行なわれました。

その結果，アフリカ大陸から新大陸へ運ばれた黒人奴隷の数は，生きて上陸しただけで1,500万人，死亡者と含めると5,000万人ともいわれ，正確な実数は，現在でもなお，つかみきれないのが実状です。



〔図IV-6〕

（質　問）

左の写真は，1829年に出された，あるポスターです。

どのような内容のものか，見当がつきますか？

（4-8）

T：答は(ウ)の西インド諸島=カリブ海諸島なんだけどね，細川君のいった理由じゃないようだよ。（生徒笑い）

新大陸へ運ばれた奴隷の数の多さに一様に驚いている。

次に質問を読み，考えさせた。

T：何のポスターだと思う？

小さい文字は読みづらいから，大きい文字でちょっと考えてごらん。

※　以前授業で「奴隷制社会」をやったとき，英語で奴隷のことをスレーヴといい，その語源がスラブ地方から連れてこられた人達に由来するということを話したことがある。

坂口：特売のポスターだべゃ。（笑い）

T：うん，そうだ。何か売りもののポスターだよ。何を売ってるんだろう？

細川：酒だ！（笑い）

T：うん，確かに酒も売るんだ。その他には？

山本：うーん，音楽だな。ジャズかな。飲み屋のポスターだ。（笑い）

どこからか「ＬＥＴだから，レンタルでないかい？」という声が聞こえた。

（4-9）を配布し，奴隷が競売にかけられ，品物といっしょに売買されていたことや，また，貸しだされていたことなどを簡単に話した。

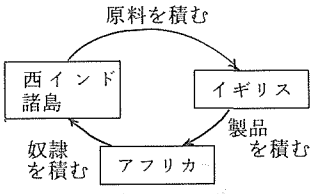
このポスターは，黒人奴隷の競売の呼びかけです。
内容は，おおよそ次のようなものです。

売ります。貸します
競売を行ないます
1829年5月18日、月曜日
木の下にて
売りものは
次の3人の
奴隷ども
です
ハンニバル，約30才、良い性格の優秀な使用人
ウィリアム，約35才、労働者
ナンシー，優秀な使用人で、子守り女
・・・・・・
貸します
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
男と女の
奴隷ども
ロバート・バーグレイ，約20才、良好な使用人。
ウィリアム・バーグレイ，約18才、労働者。
ジョン・アームズ，約18才。
ジャック・アントニア，約40才，労働者
（以下省略）
（注）・・・・部分は判読不能箇所

(4-9)

9時間目　'83. 10. 27 実施　　欠席1名（細川）

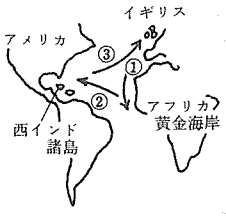
前時に2名の欠席者がいたため，授業内容の復習を行ったのち，（4-10）を配布した。
読みおわったあと，内容整理のつもりで以下のことを板書した。

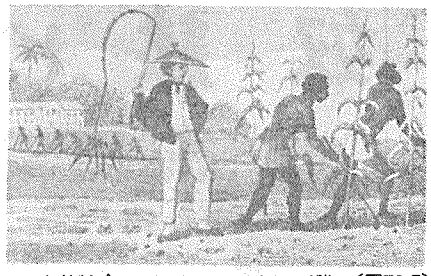


西インドプランテーションと「三角貿易」

黒人奴隷は，3か月余りの長い航海を経て，西インド諸島などのプランテーション労働者として売りとばされました。

プランテーションでは，砂糖，タバコ，綿花などが栽培され，それらの原料は再び大西洋をわたって，ヨーロッパへ運ばれるのです。





奴隷制プランテーション　西インド諸島の大農場で酷使される黒人奴隷。彼らはタバコ，砂糖，コーヒーなどの栽培に労働者として使われた。1821年ごろの図。　〔図IV-7〕

奴隷貿易は「三角貿易」ともいわれました。その理由は，上の図のように，奴隷船が大西洋を三角形の形をとって航海したからです。

この三角貿易のあらましをまとめると，次のようになります。

第1航路　（イギリス本国→アフリカ黄金海岸）

船には，毛織物，綿布，金属製品(特にポット，なべ)，武器，ラム酒，タバコ，砂糖などの「製品」が積み込まれ，アフリカで，奴隷と交換されました。

第2航路　（アフリカ黄金海岸→西インド諸島）

この航路は「中央航路」ともいわれました。船に積まれた奴隷は途中，4分の1以上は病気や衰弱によって死亡してしまいます。

西インド諸島に着くと，奴隷は競売にかけられ，奴隷商人は奴隷を売ったお金で，今度は，この地方の産物である砂糖，タバコ，綿花，ラム酒などの「原料」を仕入れるのです。

第3航路　（西インド諸島→イギリス本国）

お金や，豊富な積み荷（原料）を満載した奴隷船は，一路本国へむかうのです。

（4-10）

また，この三角貿易では，船が本国を出発して，また本国まで戻って来るのに約1年もかかった航海であったことを補足説明した。

(4-11) を配布し，予想をとった。

予想分布
(ア) 2
(イ) 3
(ウ) 5

〔問　題〕 奴隷商人は，イギリスの人々からどのように思われていたと思いますか。

（予　想）
(ア) 社会の指導的立場にある，りっぱな人道主義者（ヒューマニスト）と思われていた。
(イ) 罪深く，いまわしい人間たちと思われていた。
(ウ) 社会のクズどもと思われていた。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしてみましょう。

(4-11)

T：得永さんはどうして(ア)だと思ったの？
得永：㋐当時の人々の考え方からいえば(ア)じゃないのかなって思った。
T：長谷川さんはどうして(ア)だと思ったの？
長谷川：うーん，なんとなく。
T：(イ)と答えたのは，えーと山本君か？
　山本君はどうして(イ)の罪深く，いまわしい人間たちって思ったの？
山本：㋑うーん。まぁそう思ったから（笑い）
T：小林さんも(イ)だね。
小林：㋑なんとなく。
T：坂口君も(イ)だね，どうしてそう思った？
坂口：なんとなく。
T：みんななんとなくか。うーん，じゃ門脇君。門脇君は(ウ)の社会のクズどもだね。どうしてそう思った？
門脇：㋒なんとなく。（笑い）
T：知里さんも(ウ)だね。どうして(ウ)だと思ったの？
知里：㋒やっぱりね，人間を売り買いするなんてね，人間のやることじゃないしね，社会のクズって思われていたと思う。
門脇：クズでなくてチリだべや。（笑い）
T：新井君は(ウ)だね。どうしてそう思ったのかな？
新井：㋒問題よく聞いてなかった（笑い）なんとなく手あげちゃった（笑い）

T：藤沢君も㋒だね。どうしてそう思った？
藤沢：㋒知里さんと同じ。
T：岡崎君はどうかな。岡崎君も㋒だけど。
岡崎：特に理由はない。
T：能代谷君はどう？
　㋒だけど。
能代谷：特にない。
T：だいたい理由を聞いたんだけど，他に何か意見なんかないかな。（生徒沈黙）
　予想変更したい人はいない？
（4-12）を配布し，読んだ。

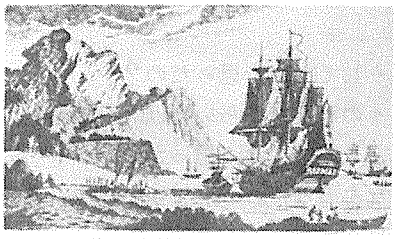
奴隷商人はりっぱな紳士!?

三角貿易とよばれる，この奴隷貿易の第2航路，すなわち，アフリカ黄金海岸から西インド諸島への航路が，イギリス本国の人々にはみえにくいものになっていました。

みえるのは，毛織物や綿布，金属製品などを積んで出航し（第1航路），そして，その船が1年くらいたって砂糖やタバコ，綿花などの原料を積んでもどって来る（第3航路）という，普通の貿易の姿だったのです。

奴隷商人たちが運んできた原料は，本国で製品化され，ヨーロッパ各地に輸出されました。その結果，イギリスには，ばく大な利益がもたらされました。

ですから，長い，危険な航海を経て帰ってきた奴隷商人や船長は，英雄であり，名士だったのです。



アフリカの奴隷貿易　奥地から連れ出された黒人たちがアフリカ海岸で船につみこまれるところ。
〔図IV-8〕

18世紀のリヴァプールの銀行家
〔図IV-9〕

彼らは，奴隷貿易で蓄えた利益をもとでに政治家になったり，銀行家になったり，あるいは工場の経営者になったりしました。

同時に，彼らは利益のほんの一部を使って，慈善行為を行なったりもしていたため，イギリスの人々からは，社会の指導的立場にある，りっぱな人道主義者と思われていたのです。

（4-12）

（4-13）を配布し，予想をとった。

予想分布

仕入値	売り値
(ア) 4	0
(イ) 6	8
(ウ) 0	2

〔問　題〕 18世紀後半の奴隷貿易では，奴隷１人をいくらくらいで仕入れ，いくらくらいで売ったと思いますか。ただし，奴隷の値段は，男女別，年齢別で差があったので，平均で考えてみてください。

※　ヒント

1790～1840年ごろの，イギリスの熟練労働者の家庭の１年間の収入は，50～60ポンド（月収にすると４～５ポンド）くらいでした。

仕入値	売り値
(ア)　３～４ポンド	(ア)　15～20ポンド
(イ)　10～30ポンド	(イ)　50～80ポンド
(ウ)　100～120ポンド	(ウ)　500～600ポンド

予　想　　予　想

（4-13）

ここでの生徒の意見は，仕入値をできるだけ低くおさえて，売り値を高くするというのがほとんどであった。

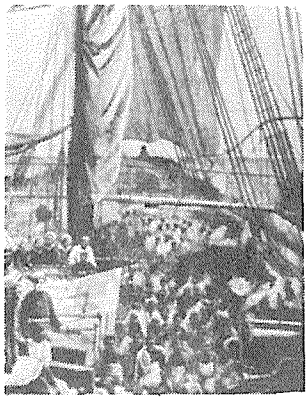
奴隷貿易はもうけのかたまり

奴隷の仕入値，売り値は年代によって変動がありましたが，18世紀後半では，仕入値10～30ポンド，売り値が50～80ポンドくらいでした。

奴隷をアフリカから西インド諸島へ運ぶのに，奴隷１人あたり5～10ポンドの経費がかかったそうですが，それらを考慮しても，１人売却すると，30～50ポンドの純利益がありました。

１隻の船に積み込まれる数は200～300人くらいでしたから，１航海で，少なく見積っても7,000～8,000ポンドの利益があったことになります。

特にリヴァプールでは，利益率が100％というのは珍しくなく，利益率が300％の船もざらにありました。最近の研究資料によると，18世紀末のリヴァプールは，奴隷貿易で年間300,000ポンドの純利益をあげたといわれています。



奴隷船に積み込まれる黒人たち
〔図IV-10〕

船上で黒人奴隷をおどらせる奴隷商人
〔図IV-11〕

(4-14)

（4-15）と（4-16）は2ページにわたる〝まとめ〟になるところである。
生徒にはやや言葉がむつかしいところであるかもしれない。
（4-16）の≪ことばの解説≫は「資本キお金」という点を理解してもらうため，あえてもうけた。

「産業資本の蓄積」まとめ

イギリス産業革命を準備した産業資本の蓄積は，どのような方法を通じてなされ，そして，どのようなことに使われたのですょうか。

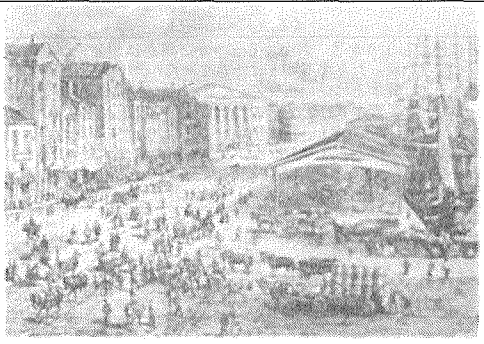
まず第1に認められるのは，地主，農業資本家を中心とした資本（主には貯蓄）の蓄積です。農業革命などを通じてたくわえられた資本は，運河や有料道路の建設に投資されたり，また，彼ら自身が工場を経営したりする資金になりました。

次に認められるのは，外国貿易による資本の蓄積です。イギリスは，西インド諸島から輸入された砂糖や，ラム酒，綿花，タバコなどの原料を製品に加工し，改めてヨーロッパ諸国へ輸出して，ばく大な利益をあげました。

奴隷売買の利益に加え，このヨーロッパ諸国との貿易の利益も含めて考えると，18世紀のイギリスの貿易を支えていたのは，この奴隷貿易だったといえます。さらに，産業革命がはじまったころ，その中心になったランカシャーの綿織物工業に，原料としての綿花を供給したのも黒人奴隷でした。

まさに黒人奴隷は，二重の意味でイギリス産業革命の土台になったといえるのです。E・ウイリアムズという歴史家は次のように述べています。

「マンチェスターの成長は，同市の海岸と国際市場への出口であるリヴァプールとの成長と密接に関連していた。奴隷貿易によりリヴァプールの蓄積した資本は，その後背地に流れこみ，マンチェスターの活動力を培った。マンチェスターのアフリカ向け商品は，リヴァプールの奴隷船に積み込まれてアフリカ海岸に運ばれた。ランカシャー州の海外市場といえば，主として西インド諸島のプランテーションおよびアフリカを意味した……このような三角貿易への極端な依存関係こそマンチェスターをして今日あらしめたものである。」（『資本主義と奴隷制』訳書81ページ）



イギリス海外貿易の中心港として発展したリヴァプール

〔図IV-12〕

（4-15）

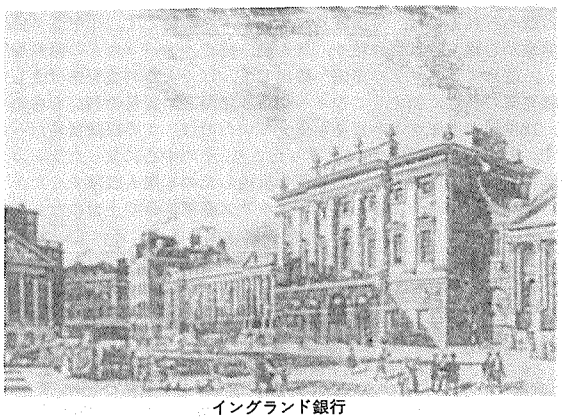
それでは，一体どのくらいの資本が蓄積されたかみてみましょう。

たとえば，西インド諸島のプランテーション経営による資本創出額は，なんと，18世紀だけで年平均100万ポンドといわれています。

ちなみに，当時，大規模な紡績工場を一基建設すると(機械などの設備いっさいを含めて)約3,000ポンドの費用がかかったそうですから，資本創出額は驚くべき数字ということになります。

プランターの多くは不在地主化して，イギリス本国に住んでいました。彼らは，その巨大な富を直接産業に投資したり，自ら産業資本家になったり，金融業（銀行，保険会社）を営んだりしました。また，彼らの中には財力をバックに政界入りした者も多数いました。

以上述べてきたように，地主，農業資本家を中心とする国内の資本蓄積と外国貿易や植民地プランテーションの経営などによってもたらされた資本とが相まって，イギリスの産業革命は徐々に，その条件を整えていったのです。



イングランド銀行

〔図IV-13〕

《ことばの解説》

資本とは何でしょうか？　お金でしょうか。確かにお金がなければ工場を建てたり，労働者を雇ったりすることはできませんが，しかし，お金をもっているだけでは，それは資本とはいいません。お金は，もうけをあげるように使われたもきに，はじめて「資本」となるのです。「産業資本」とは生産手段を買い入れ，労働者を雇って商品を生産し，それによって金もうけするようにお金が使われること，つまりお金の使い方であるということができます。特に資本主義のもとでは資本と賃労働という生産関係がつくりだされたとき，お金は資本となりますから，「資本は生産関係である」といういい方もできます。

10時間目 '83. 10. 27 実施　　欠席1名（細川）

(5-1) を配布し，授業書の空らんに，大ざっぱな数値を記入させた。

比較的多かった予想数値は

次のようなものである。

65 55歳	60 55歳	60 55歳
60 55歳	55 50歳	55 50歳
55 50歳	55 45歳	55 45歳

5 労働者階級の状態

〔問　題〕 現在，日本人の平均寿命はおよそ77歳です。

それでは，今から約150年前（1830年前後），ちょうど産業革命が終りかけていた時のイギリスでは，人々の平均寿命はどのくらいだったと思いますか。

あなたの予想する寿命（年齢）を下の表の空欄に記入してください。

階級＼地域	ラトランド州 農業地帯	リバプール 商工業都市	マンチェスター 商工業都市
知的職業階級 地主階級	歳	歳	歳
商人農民 小売商	歳	歳	歳
機械工 労働者	歳	歳	歳

どうしてそう思ったのか，理由があればだしあってみましょう。

(5-1)

生徒の側の意見，理由としては，「人生わずか50年，という言葉がある」「労働者階級の平均寿命は，他の階級よりも低いと思う」というのが大半であった。

また，知的職業階級・地主階級の平均寿命を他の階級より高く予想した理由として，「比較的に楽して暮してるから」「金があるから医者にもかかれるから」という理由が聞かれた。

さらに，同じ階級でも農業地帯で暮している方が平均寿命が高いという理由として，「農村は静かで，空気がきれいだから」とこたえる生徒が多かった。

(5-2) を配布した。授業書を手にした生徒の口々から「エーッ！」「ウソー！」「こんなに低いのぉ！」等々の驚嘆の声があがった。

生徒にはかなりのショックだったらしく，授業書を読んでいる間も，教室全体は「シーン」と静まりかえっていた。

平均寿命は次のとおりです。

〔表Ⅴ－1〕

階級＼地域	ラトランド州 農業地帯	リバプール 商工業都市	マンチェスター 商工業都市
知的職業階級 地主階級	52 歳	35 歳	38 歳
商人 農民 小売商	41 歳	22 歳	20 歳
機械工 労働者	38 歳	15 歳	17 歳

イギリスの労働者のほとんどが，低賃金と長時間労働を強いられ，しかも生活環境はきわめて劣悪な状態のなかで，日々の生活を営まねばなりませんでした。

その結果，結核やチフス，さらに栄養不足のために虚弱体質やクル病が多く，しかも労働者は満足に医者にもかかることもできないため，死亡率が高かったのです。

上の表をみてもわかるように，死亡率にも階級がはっきりとあらわれています。

このような労働者の平均寿命の短さは，幼児死亡率の高いことによります。

たとえば，マンチェスターでは労働者の子どもの半分以上が，5歳にならないうちに死亡したといわれています。

当時の労働者は，このような状態を「社会的殺人」とよんでいました。

すし詰の部屋　せまく，暗く，換気の悪い部屋に2，3家族がいっしょに住んでいる労働者の住居。産業革命の進展とともに都市ではこのようなスラム街がふえていった。

〔図Ⅴ-1〕

地下室住居　地下室は，排水や採光・換気などの点で，長屋住宅よりいっそう条件が悪かったが，余裕のない労働者はがまんするほかなかった。図は1830年ごろのマンチェスターの例。

〔図Ⅴ-2〕

(5-2)

次に（5-3）を配布し，予想をとった。

予想分布

(ア) 2

(イ) 1

(ウ) 7

(エ) 1

(オ) 0

〔問　題〕 1800年代のはじめ，イギリスのロンドンではナイトメン（Nightmen）とよばれる職業の人々があらわれました。

さて，「ナイトメン」とはどんな職業の人々だったと思いますか。

（予　想）

(ア) 深夜勤務の工場労働者

(イ) コーヒーハウスの経営者

(ウ) 夜警員

(エ) 便所の汲取人

(オ) その他（　　）

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

(5-3)

T：それじゃ，ちょっと理由を聞くかな。少ない方からね。
　得永さんが㈡の便所の汲取人だね。どうしてそう思ったの。（生徒から笑い）
得永：㈡時代的にね，コーヒーハウスとか，夜警員なんていなかったと思うし，㈠の深夜勤務の労働者かなとも思ったんだけど，㈡の方がおもしろいから…。
T：㈠がやっぱり一人。坂口君だね。どうしてコーヒーハウスの経営者だと思ったの。
坂口：㈠よく俺もわかんねえな。（笑い）
新井：わかんねえのに手あげてやんの，アホ！（笑い）
T：㈠の深夜勤務の労働者とこたえたのは藤沢君と小林さんだね。藤沢君はどうしてそう思ったの。
藤沢：㈠なんとなく。
T：小林さんはどう？
小林：㈠あのね，産業革命がすすんでいくとね，昼間だけの仕事量では間に合わないから，夜も仕事したの思うのね。だから㈠にしたんだけど。
T：残りの人が㈢の夜警員だね。門脇君はどうして㈢だと思ったの。
門脇：㈢なんとなくね。
T：新井君も㈢だね。
新井：㈢「ナイト」っていうんだから，㈠か㈢だよ。まぁ㈢だね。
T：知里さんはどうして㈢だと思ったの。
知里：㈢当時の工場の労働者は貧しかったからね，「暴動」おこしたと思うのね。だから，そういう「暴動」を抑えたり，見張ったりするのに工場に夜警員をおいたと思う。
T：なるほど。山本君はどう？
山本：㈢なんとなく。
T：長谷川さんも㈢だね。どうしてそう思った。
長谷川：㈢すなおに「ナイト」から夜警員にしたんだけど。
T：岡崎君はどう。
岡崎：㈢うん，字のとおり。
T：「ナイト」ってことからかい。能代谷君は？
能代谷：㈢やっぱり「ナイト」から。
T：他に何か意見ないですか。予想変更したい人はいない？

（5-4）を配布

T：答は㈡の便所の汲取人です。

生徒：「エーッ！」（驚きなのか，シャレなのか判らない）

「本当かよ」「得永，便所だってよ」（笑い）

T：では，なぜ「ナイトメン」とよばれたのか，読んでみます。

（5-4）を読む。

アイルランド人労働者

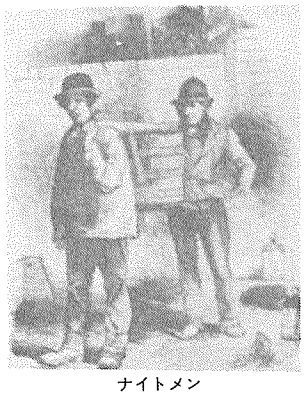
ひとくちに「労働者」といっても，いろいろな層の人々がいました。その中で，最も最下層の労働者といわれていたのは，アイルランドから移住してきた人たちでした。

アイルランドは，12世紀にイギリスの侵入をうけ，さらに17世紀にはいって1649年，クロムウェルらによって征討されました。

それ以来，アイルランドはイギリス人の地主に土地を奪われていきました。

18世紀になると，多くのアイルランド人は高い小作料で食うや食わずの苦しい生活になり，祖国をすててイギリスやアメリカ大陸への移住を余儀なくされる者が，年々増加していきました。

1840年ごろのアイルランドの人口は800万人以上でしたが，1841～51年の間に145万人が，そして1851～91年の間には185万人がイギリスやアメリカ大陸へ流出してしまいました。



ナイトメン
〔図Ⅴ-3〕

移住してきたアイルランド人にたいするイギリスでの扱いは，きわめて非人間的でした。たとえば，彼らに与えられる仕事は，いわゆる「汚ない」とか「つらい」と思われていたものばかりでした。

ナイトメンもその一つで，各家庭のドアの外に出された糞尿の桶を夜中から明け方にかけて回収し，近くの川へなげすてる仕事でした。

また，工場などでも，イギリス人労働者と同程度の仕事量をこなしても，賃金はイギリス人労働者の半分以下という，みじめな状態であり，依然として食うや食わずの生活が続いていたのです。

（5-4）

11時間目 '83. 10. 31 実施　　欠席1名（山本）

前時の授業内容を簡単に復習したのち，（5-5）を配布し，予想をとった。

予想分布
(ア) 3
(イ) 1
(ウ) 7

1830年ごろの炭鉱のはなしです。リチャードとスミスという2人の労働者がいました。2人は同じ年齢で，同じ職場で，同じような仕事に従事しており，賃金もほぼ同じです。また，彼らの家族は次のとおりです。

リチャード：妻，子ども5人（男9歳，女8歳，女7歳，女6歳，女5歳）

スミス：妻，子ども2人（男9歳，男8歳）

〔問　題〕 リチャード一家とスミス一家では，どちらの方が経済的に苦しかったと思いますか。

（予　想）

(ア) リチャード一家の方が生活は苦しかった。

(イ) スミス一家の方が生活は苦しかった。

(ウ) それほどのちがいはなかった。

予　想

(5-5)

T：(イ)のスミス一家の方が生活は苦しかったというのは，岡崎君だね。どうしてそう思ったの。
岡崎：㋑普通は子どもが多いとさ，「貧乏人の子だくさん」っていうでしょ。子ども多いと食わせるのに金がかかるからね。でも…ちょっと裏をかいて(イ)にしてみた。
T：じゃ(ア)の門脇君，どうしてリチャード一家の方が生活が苦しかったと思ったの。
門脇：㋐子どもが多いからさ……。うん。
　あ，これ5人全部年子だべや，わやだな。（爆笑）
T：長谷川さんはどうして(ア)だと思ったの。
長谷川：㋐単純にね，子どもが多いから。
T：藤沢君はどうして(ア)だと思ったの。
藤沢：㋐やっぱり同じに，子どもが多いから金がかかるから。
T：それほどのちがいがないという(ウ)の坂口君，どうしてそう思った？
坂口：㋒子ども多くたって，たいして変りねえよ。
T：小林さんも(ウ)だね。どうしてそう思ったかな。
小林：㋒イギリスはね，「ゆりかごから墓場まで」めんどうみてくれるんだから，そんなに違いはないと思った。
T：知里さんはどうして(ウ)だと思ったの？
知里：㋒うん，私はね，子どもの数というよりはね，当時の労働者は子どもが多くても少なくても「貧しさ」という点ではそれほどのちがいはなかったんじゃないかなと思って(ウ)にしたんだけど。
T：新井君はどうして(ウ)だと思ったの。
新井：㋒坂口と同じ。
T：得永さんはどうして(ウ)だと思ったの。
得永：㋒私ね，リチャードとスミスがいっしょに住んでいると思ってね…。
T：リチャード一家とスミス一家は別々に生活しているんだよ。別々だったらどう？
得永：うーん。それでもやっぱり(ウ)かな。
T：能代谷君はどう？
能代谷：㋒なんとなく。
T：あとほかに意見ある人はいないかな。予想変更したい人はいない？
　じゃ（5-6）を配ります。答は(イ)なんですよ。
　※　生徒の方からは「エーッ」という声があがる。

（5-6）を読みながら，図Ⅴ-4の四つんばいの子どもの仕事ぶりと，図Ⅴ-5の左端に子どもがひざをかかえてすわっている様子を確認して（質問）へうつった。

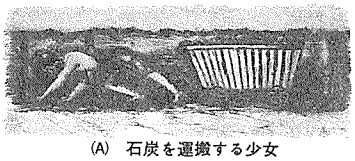
予想分布
(ア) 4
(イ) 2
(ウ) 4

当時の炭鉱では，4，5歳の子どもが働いていることはめずらしい事ではありませんでした。

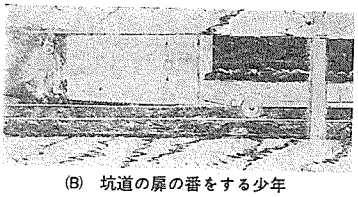
これらの子どもたちは鉱石を運搬したり，また採掘場を仕切っている通気ドアを労働者や鉱石が通るときに，ひらいたり，とじたりする仕事をしていました。

ですから，年齢の低い子どもでも労働者の一家にとっては大切な働き手だったのです。

次の絵をみてみましょう。



(A) 石炭を運搬する少女
〔図Ⅴ-4〕



(B) 坑道の扉の番をする少年
〔図Ⅴ-5〕

（質　問）Bにあるような通気ドアの番は，たいてい一番小さい子ども（4～6歳）がやっていました。

さて，この子どもはどのくらいの時間，坑道の中で仕事をしていたと思いますか。

（予　想）

(ア) 8時間ごとの3交替で仕事をした。

(イ) 1人で12時間ぐらい仕事をした。

(ウ) 3人で4時間ずつ計12時間仕事をした。

予　想

（5-6）

T：(ア)を予想したのは小林さんかい。

小林：㋐休みなくだれかが必ず仕事をしてたと思って。

T：藤沢君も(ウ)だね。どうしてそう思ったの。

藤沢：㋒子どもだからね，8時間や12時間も仕事するのはちょっと大変だし，4時間ぐらいならなんとかね…。

T：岡崎君は(イ)だったね。どうしてそう思った？

岡崎：㋑仕事して金もらうんだから，そんな甘いもんじゃない。（笑い）
12時間は働いたと思う。

※　このあと数人の生徒に理由を聞いたが，特になかったので深入りせず，（5-7）をすぐ配布した。

（5-7）を読みつつ，「真っ暗やみの中で12時間もだまってすわっていることができるかどうか，自分に置きかえて考えてみてごらん」という指示をしてみた。

暗やみでじっとしていることの非人間性については，あまり理解しえたとは言えなかったが，図Ⅴ-6の車のない箱に石炭を積んで四つんばいになって運んでいる様子には，生徒も驚きをあらわしていた。

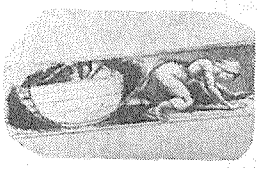
予想分布

(ア) 1
(イ) 1
(ウ) 2
(エ) 4
(オ) 3

ドアの番は，狭くて，じめじめした坑道に毎日12時間も暗やみの中で，たった一人で，しかも何もしないでじっとすわっていなければならないという，きわめて非人間的な状態だったのです。

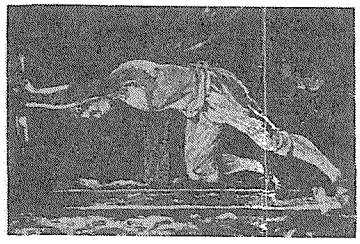
また運搬もつらい仕事で，石炭を車のついていない箱に入れ，急傾斜の坑道を四つんばいになって引きずったり，押したりしていかなければならないこともありました。

その結果，子どもには著しい発育不良や身体の奇形化が生じるようになりました。



〔図Ⅴ-6〕

10代から炭鉱で仕事をしている労働者のほとんどは，30～40歳ですでに，老年期にはいってしまうほど，その労働は過酷なものだったのです。



〔図Ⅴ-7〕

〔問　題〕 当時，炭鉱で働いていた労働者の賃金はどのような形で支払われていたと思いますか。

（予　想）

(ア) 現金で支払われていた。
(イ) 現物で支払われていた。
(ウ) 品物と交換できる切符（商品券）で支払われていた。
(エ) 現金と現物で支払われていた。
(オ) 現物と切符（商品券）で支払われていた。

予　想

(5-7)

問題を読み，予想をとった。

※　選択肢の表現－「現物」，「切符」，「商品券」－は生徒にはやや理解しにくいものであったようである。

今後，検討を要する点である。

T：新井君は(ア)の現金で支払われた，だね。どうしてそう思ったの？

新井：㋐現物ったって，いらないものもらったってしょうがないし，やっぱり現金さ！（笑い）
T：長谷川さんは㋑の現物だね。どうしてそう思ったの？
長谷川：㋑いらないものじゃなくてね，生活に必要なものを現物でもらっていたと思う。
新井：病気したらどうするのよ。金なかったらこまるべや！
長谷川：その時は雇い主がだすのさ。
T：病気なんかの治療費であれば雇い主が支払うっていうこと？
長谷川：そう。
T：岡崎君は㋒だね。どうしてそう思ったの？
岡崎：㋒なんとなく。
T：坂口君も㋒だね。
坂口：㋒なんとなく。
T：能代谷君は㋓だけど，どうしてそう思った？
能代谷：㋓よくわかんないけど，なんとなく。
T：藤沢君も㋓だね。
藤沢：㋓現金と現物，半々ぐらいで支払ったと思う。
T：なるほど。知里さんも㋓だけど，どうしてそう思ったの？
知里：㋓小さい子どもも働いているからね，大人には現金で，子どもには現物で支払ったんじゃないかと思うの。
T：うん，なるほど。細川君も㋓だね。
細川：㋓普段のときは生活に必要なもので支払って，病気やケガなんかしたときはね，現金で払ってやったんじゃないかな。
T：㋔が3人いるね。門脇君は㋔だね，どうしてそう思ったの？
門脇：㋔こういうところでは，なかなか現金は出さなかったんじゃないのかなって思った。山の中だしさ。
T：小林さんはどうして㋔だと思ったの？
小林：㋔山の中の仕事だし，そんなに店があるわけでもないだろうしね，現金は必要なかったんじゃないのかなって思ったの。
T：得永さんも㋔だね。どうしてそう思ったの？
得永：㋔「貧民」にはお金をあげなかったんじゃないかって思って。
T：うーん。ちょっと聞くけど，それはどういう意味なのかな。貧しい人たちには金をもたせなかったってこと？
得永：うーん，すこしちがうんだけど，階級的な差別がひどかったんじゃないかなって…。
T：あとどうだろうか，何か意見や質問ないかな。
　予想変更したい人はいないかな？

(5-8) を配布して読んだ。

語句がややむづかしいので，「現物給与制度」と「小屋制度」の内容については，かみくだきながら，補足しつつ読みすすんだ。

「現物給与制度」と「小屋制度」

当時の炭鉱主は，炭鉱労働者を従属させておくために，次のような制度をつくっていました。

その1つは，「現物給与制度（トラック・システム）」というものです。これは労働者の賃金を，現物かまたは特定の売店（売店の経営者は炭鉱主だった）のみで通用する切符（一種の商品券）で支払う形態でした。

この制度では，現金が労働者の手もとに残ることはなく，しかも，特定の売店でしか通用しない切符しかもたないため，高い値段で品物を買わされることになります。

「トラック・システム」は炭鉱だけではなく，他の一般の工場でもやられていましたが，賃金の実質低下につながるという労働者からの批判をあび，1831年，「トラック法（現物給与禁止法）」が制定されました。

これによって，大部分の労働者はその弊害から守られることになりましたが，農村と炭鉱だけは依然としてこの「トラック・システム」が残存していました。

のう1つは，「小屋制度」というものです。

炭鉱主は，雇用確保のため労働者用の住宅（小屋）を建てました。しかし，炭鉱主にとって不都合な労働者，たとえば，生活の改善などを要求したり，あるいはストライキをしようとする労働者は，すぐ解雇され，しかも解雇されたなら，今まで住んでいた家をあけ渡さなければならないというしくみになっていました。

もしその家を追われたなら，その日から，労働者の家族は路頭にまよい，飢え死にするしかなかったのです。だから，労働者は不満があっても，がまんしなければならないことが多かったのです。

このように，「トラック・システム」と「小屋制度」の2つは，労働者を資本家に従属させるのに，特に貢献した制度だったといえます。

(5-8)

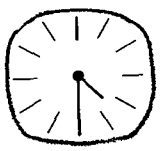
(5-9) では，ほとんどの生徒が「少しでも長く働かせるため」という考えを示した。

その他の考えとして「機械はスイッチを入れても，すぐには動きださないだろうから，機械をある程度あたためるのに5分間ぐらいすすめていたと思う」(知里) というものがあった。

〔問　題〕 1830年ころのイギリスのある紡績工場のはなしです。この工場の時計は，町の公式の時計よりも朝は5分すすみ，晩は5分おくれました。

どうしてこんなことになっていたと思いますか。

君の考え



(5-9)

(5-10) を配布して読んだ。ここでは，10分間の労働時間の延長が，一工場全体でどのくらいの労働時間になるかを具体的数値で示した。

生徒の中からは「わぁすごい時間だな」とか「工場主っていうのは，ずいぶんせこいなあ」という声が聞えてきた。

「数分間のコソ泥」

工場主は利潤をあげることを目的に，工場を経営しています。利潤を高めるためには，品物を安く大量につくり，それを高く売ることが第一です。そこで考えだされるのが，同じ賃金で，労働者を長く働かせて，品物をつくることでした。

時計を朝5分すすめ，晩は5分遅らせるのはそのためです。

たとえば，次のような計算が成りたちます。

- 1日につき5分×2＝10分長く働かせる。
- それが1週間では，10分×6日＝60分1時間になる。
- 当時の工場では，平均で200～300人の労働者がいましたから，仮りに200人の労働者だったとすると，
  1週間で，1時間×200＝200時間に相当します。

当時の紡績工場の労働時間は1日平均14時間くらいでしたから，200時間は14人分の1日労働時間になります。

つまり，工場主は時計を朝，晩5分ごまかすだけで14人の労働者を，ただで働かせたのと同じことができたのです。

（1か月だと14人×4週＝56人がただ働きしたことになる。）

当時の人は，このことを「数分間のコソ泥」とよんでいました。

(5-10)

「Time is money」とはいいえて妙である。

12時間目　'83. 10. 31 実施　　欠席1名（山本）

前回までの授業内容を簡単に復習したのち，（5-11）を配布した。

予想分布
(ア) 1
(イ) 3
(ウ) 3
(エ) 2
(オ) 2

〔問　題〕 右の表は，平均的なある紡績工場が1838年に使った費用をあらわしたものです。

この年，工場主のもうけ（利潤）は1,500ポンドだったそうです。

さて，この工場主の利潤は当時の労働者一人の平均年間収入の何倍くらいあったと思いますか。

	ポンド
利子や機械・工場の購入費（年平均の費用）	2,300
綿花購入費	14,000
蒸気機関や機械などの維持費、修理費	1,800
労働者への賃金	5,400
工場主のもうけ	1,500

〔表V－2〕

（予　想）
(ア) およそ10倍くらい。
(イ) およそ30倍くらい。
(ウ) およそ60倍くらい。
(エ) およそ100倍くらい。
(オ) 100倍以上。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしてみましょう。

(5-11)

(ウ)以外をこたえた生徒からは，特に理由は聞かれなかったが，(ウ)をこたえた3人（岡崎，門脇，細川）は，いずれも前ページの授業書（5-10）の説明から平均労働者数を200人として計算したとしている。

（5-12）を配布して，資本家の利潤の大きさを確認した。

資本家の利潤と労働者の賃金

当時の労働者の平均賃金は，1833年のランカシャー地方で，1週125ペンス程度でした。

これは，年間にすると……

125ペンス×52週＝6,500(ペンス)

＝27(ポンド)

ということになります。

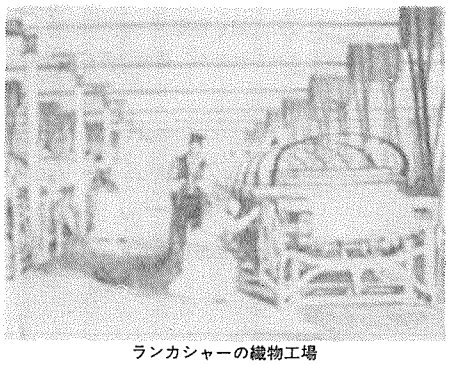
工場主の利潤が，この年1,500ポンドですから，56倍という数字がでてきます。

※　当時の工場の平均労働者数は200人程度だったと考えて計算してもいいです。すなわち……

この工場の労働者1人あたりの年平均賃金は

5,400ポンド÷200人＝27ポンド/人

1シリング＝12ペンス 1ポンド＝20シリング



ランカシャーの織物工場

〔図Ⅴ-8〕

（5-12）

(5-12) を読んだのち，すぐ (5-13) を配布し，予想をとった。

予想分布
(ア) 2
(イ) 3
(ウ) 1
(エ) 4

〔問　題〕 18世紀の産業革命期のイギリスには，身よりのない貧しい子どもたちを救済する施設として，教区ごとに「救貧院」がありました。ここの子どもたちは，しばしば工場へ働きに行くことがありました。

さて，救貧院の子どもは工場でどのような待遇をうけたと思いますか。

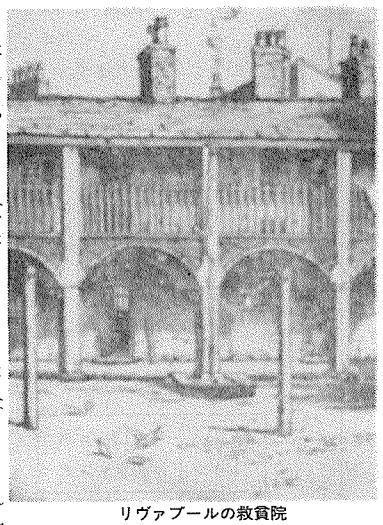
（予　想）

(ア) 一度工場に働きにでた子どもは，成人するまでその工場で働かねばならなかった。

(イ) 子どもは強制的に救貧院から工場主に賃貸しされ，ひどいあつかいをうけた。

(ウ) 他の子どもの労働者とは区別され，比較的楽な仕事にまわされた。

(エ) 他の子どもと区別されることはなく，同じ程度の仕事をさせられたが，賃金は彼らよりもよかった。



リヴァプールの救貧院
〔図Ⅴ-9〕

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

(5-13)

T：それじゃちょっと理由を聞いてみるかな。坂口君が１人(ウ)だけどね，どうして(ウ)だと思ったの。

坂口：㋒家庭的にめぐまれない子どもなんだから，多少は楽な仕事をさせたんじゃないかって…。

T：新井君はどうして(ア)だと思ったの。

新井：㋐よくわかんないけど，年季奉公みたいなもんじゃないかな。「おしん」だよ。（笑い）

T：得永さんはどうして(ア)だと思ったの。

得永：㋐身寄りがないからね，仕事をおぼえて自立できるまでは工場でめんどうみたんじゃないかなって思って。

T：門脇君は(イ)だね。どうしてそう思ったの。

門脇：㋑うーん，身寄りがないっていうだけでも差別されたんじゃないかな。

T：知里さんも(イ)だけど，どうしてそう思ったの。

知里：㋑(ア)だったらひどすぎるしね，(ウ)や(エ)だったら救貧院の子どもがどんどん増えてきちゃうんじゃないかと思って。

T：藤沢君はどうして(イ)だと思ったの。

藤沢：㋑やっぱり差別したと思う。他の子どもよりわるかったかなって…。

T：細川君はどうして(エ)だと思ったの。

細川：㋓ある程度あわれみをかけるから賃金はよかったと思う。日本の歴史でもそうだったしょ。

新井：お前，本当かよ！（笑い）

T：小林さんはどうして(エ)だと思ったの。

小林：㋓工場の方も貧しい子どもたちを救うために協力してくれたんじゃないかと思うのね。

T：なるほど。長谷川さんはどうして(エ)だと思ったの。

長谷川：㋓賃金が高いというのは，ちょっと気にはなるんだけど，差別されることはなかったと思う。

T：能代谷君も(エ)だね。

能代谷：㋓なんとなく。

T：他になにか意見ある人はいない？

　　予想変更したい人はいないかい？

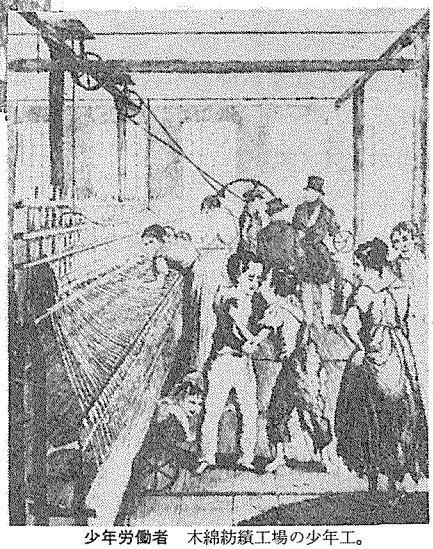
(5-14) を配布し，読んだ。
生徒は，子どもが賃貸しされていた事実に驚いていた。

工場を経営する資本家は，できるだけ生産費を節約して利潤をあげるため，子どもや婦人の安い労働力をやといいれ，彼らをできるだけ長く働かせました。

その労働時間は，6，7歳の子どもでも，食事のための休憩も含めて，普通，朝6時から晩7時までの13時間，もっとひどいところになると，14時間以上も働かされるというような状想でした。

特に，救貧院に収容されている子どもは，強制的に工場主に賃貸しされ，もっとひどい条件で働かされていたのです。

賃金の支払いを受ける少女達
〔図Ⅴ-10〕



少年労働者　木綿紡績工場の少年工。低賃金で長時間悪い労働条件の下に仕事した。トヨローブの「少年工」(1840年）の挿絵より。
〔図Ⅴ-11〕

(5-14)

13時間目 '83. 11. 7 実施　　欠席なし。

(5-15) を配布した。

表V-3で，当時のイギリスでは児童労働者数と婦人労働者数の多い点が特徴であることを確認した。

予想分布
(ア) 0
(イ) 1
(ウ) 2
(エ) 9

下の表をみて下さい。これは，1835年当時の綿織物工場で働いていた労働者の数です。

〔表V－3〕　単位：人

	成年男子	婦　人	少　年 13～18歳	児　童
イングランド	50,675	53,410	53,843	24,164
ウエールズ	250	458	354	89
スコットランド	6,168	12,403	10,442	4,082
アイルランド	960	1,553	847	436
総　計	58,053	67,824	63,486	28,771

表をみてもわかるように，子どもや婦人の労働者が多くいるのが特徴です。

〔問　題〕 さて，当時の婦人労働者が妊娠をして出産するとき，いったいいつごろまで工場で働いていたと思いますか。

（予　想）
(ア) 出産予定日の6週間前まで，工場で働いた。
(イ) 出産予定日の1週間前まで，工場で働いた。
(ウ) 出産予定日の3日前まで，工場で働いた。
(エ) 分べん時間がくるまで，工場で働いた。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

(5-15)

T：じゃ，ちょっと理由を聞いてみるかな。
　(イ)の細川君。細川君はどうして，出産予定日の1週間前まで工場で働いていたと思ったの。
細川：㋑なんとなく。
T：門脇君は(ウ)の出産予定日の3日前までだね。どうしてそう思ったの。
門脇：㋒このくらいじゃないのかなぁ。
T：能代谷君も(ウ)だね。どうしてそう思った。
能代谷：㋒なんとなく。
T：得永さんは(エ)の分べんの時間がくるまでだね。どうしてそう思ったの。

得永：㊀分べんの時間がくるまで働かせるのは，ちょっとひどいと思うけど，やったんじゃないかな。

炭坑なら(ウ)かもしれないけど，工場なら(エ)。

T：新井君も(エ)だね。

新井：㊀どうも実感ないからな。（笑い）

T：知里さんも(エ)だね。どうしてそう思ったの。

知里：㊀子どもですらね，過酷な労働条件で働かされるんだし，婦人労働者も大切な働き手だからね，ギリギリまで工場で働いたと思う。

T：なるほど。小林さんはどうだろう。(エ)だね。

小林：㊀私もね，かなりギリギリまで働かされたと思う。

新井：子ども産むなんて，たいしたことないべゃ！

※　この新井発言は女子生徒から猛反発をまねいた。

T：長谷川さんも(エ)だね。どうしてそう思ったの。

長谷川：㊀私もね，知里さんや小林さんと同じ…。

T：坂口君も(エ)だけど，どうしてそう思った？

坂口：㊀世の中そんなに甘いもんじゃねえよ。

T：うーん，そんなに甘いもんじゃない。岡崎君も(エ)だけど，どうしてそう思ったの。

岡崎：㊀なんとなく。

T：藤沢君はどうして(エ)だと思ったの。

藤沢：㊀予定日はあくまで予定日だからね，きまったもんじゃないしね。

T：なるほどね。ほかに何か意見ないですか。

予想変更したい人はいないかな？

(5-16) を配布し，読んだ。
(質問) の予想分布は次のとおりであった。

予想分布

(ア)	1
(イ)	11
(ウ)	0

長時間の工場労働は，婦人労働者に，はかりしれない悪影響をおよぼしました。骨盤の奇形，重いお産，ひん繁な流産などがそれです。

彼女たちは，妊娠しても分べんの時間がくるギリギリまで働きました。しかも，出産が終れば，3，4日後には工場にもどって，今までと同じように時間いっぱい働きとおすのでした。

(質　問)　彼女たちが，出産後すぐ工場にでて働いたのはどうしてだと思いますか。

(ア)　休むと賃金がさがるから。
(イ)　休むと解雇されるから。
(ウ)　その他（　　）

縫製工場で働く婦人労働者　時間は深夜12時をまわっている。
〔図V-12〕

(5-16)

特に意見のある生徒もなかったため，答(イ)を発表してから，補足説明を行なった。

まず，現代の日本の労働基準法に定められている「産休」（産前産後6週間）について紹介した。

また，札幌市内に限ってみても，産休中に有給を認めている職場がきわめて少ないことも紹介した。

（5-17）と（5-18）をいっしょに配布した。

（5-17）の話は，（2-6）の「家族労働と工場労働」で触れた内容と多少重複するが，「階級」の一規定として，生産手段の所有の有無を明確にするためのものである。

さらに，当時と現代とでは，生産様式は異なるが，資本家と労働者との関係は何ら変っていない点を補足した。

生産手段をもたない「労働者」

利潤を得るため，土地や工場，さらに商品をつくりだす機械（これらを生産手段といいます。）などを所有している人を「資本家」といいます。

それにたいして，土地や工場，機械など，生産手段をまったく持っていないで，「資本家」に雇われて賃金だけで生活している人を，「労働者」といいます。

「労働者」は生産手段を何も持っていなかったので，生きていくには，どんなに過酷な条件でも，「資本家」のもとで働かねばならなかったのです。

劣悪な労働条件を改善しようという動きは，1800年代の初めごろからおこり，1802年以降，何回かの「工場法」といわれる法律がだされていきました。

しかし，これとて紡績工場だけに適用されるものがほとんどで，やはり，圧倒的多数の「労働者」は，無権利状態のままだったのです。

工場に通うイギリスの労働者
〔図Ⅴ-13〕

（5-17）

(5-18) の「工場法」制定については，労働時間の変遷のみを資料として示すにとどめた。

イギリスにおける「工場法」の制定

「工場法」とよばれるものは，イギリスでは1802年，1819年，1825年，1831年，1833年，1844年……と次々に立法化されていきました。

しかし，はじめのころの「工場法」は，ほとんど効力のない，名ばかりのものでした。実効のある最初のものは，1831年の「工場法」で，正式名は「綿工場に雇用される徒弟および年少者にかんする諸法律を廃止し，これに代わる規定をもうける法」といいます。

おもな内容としては，18歳未満の労働者の労働時間を，1日12時間に制限したことが特徴です。しかし，これはあくまで綿織物工場に働く労働者だけに適用されたもので，他の職種の労働者には適用されませんでした。

下の表は「工場法」における労働時間の変遷を示したものです。

〔表V－5〕

年	対　象	制限労働時間
1802		な　し
1819	9歳以下	使用禁止
1825	16歳未満	12時間
1831	18歳未満	12時間
1833	9～12歳	週48時間
	13～18歳	12時間
	18歳未満	夜間労働禁止
1844	成年婦人	12時間
1847	18歳未満婦人	10時間
1909	炭坑夫	8時間
1919	一　般	8時間

(5-18)

14時間目　'83. 11. 10 実施　　欠席1名（藤沢）
遅刻2名（新井，門脇）

このテーマは，「階級」としての成立を単に量的増大だけではなく，「組織化」がどのようなかたちですすんでいったかを理解してもらうために設定した。

予想分布
(ア)　0
(イ)　1
(ウ)　0
(エ)　7

6　労働者階級の成立

産業革命がすすみつつあった1830年ごろのイギリスでは，およそ520万人の就業人口があったといわれています。

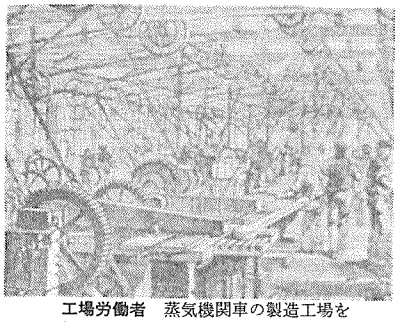
このうち，他人に雇われ，賃金をもらうことにより生計をたてていた労働者とよばれる人々は，およそ360万人だったそうです。

〔問　題〕　さて，このうち「工場労働者」といわれる人々の数は，労働者全体（360万人）の何パーセントぐらい占ていたと思いますか。

（予　想）
(ア)　およそ5％（20万人くらい）
(イ)　およそ30％（100万人くらい）
(ウ)　およそ50％（180万人くらい）
(エ)　およそ70％（250万人くらい）

予　想

どうしてそう思ったのか，理由があればだしあってみましょう。



工場労働者　蒸気機関車の製造工場を描いた版画。

〔図VI-1〕
（6-1）

T：ちょっと理由きくかな。能代谷君が(イ)の30％，100万人くらいだね。どうしてそう思ったの。

能代谷：①なんとなく。

T：細川君は(エ)の70％，250万人くらいだね。どうして(エ)だと思ったの。

細川：㊀農業よりもね，工場労働の方がすすんでいたんだから，工場労働者の人口だって多かったと思うよ。

T：小林さんも(エ)だね。どうしてそう思ったかな。

小林：うん，細川君と同じ考え。

T：坂口君はどうして㈡だと思ったの。
坂口：㈠やっぱり細川と同じ。
T：得永さんも㈡だけど。
得永：㈠なんとなく。
T：山本君も㈡だね。
山本：㈠細川と同じ。
T：長谷川さんも㈡だけど，どうしてそう思ったの。
長谷川：㈠とくに理由はないんだけど，産業革命がすすんでいるんだから，半分以上は工場労働者だったと思う。
T：知里さんも㈡だね。どうしてそう思ったの。
知里：㈠今，長谷川さんが言ったようにね，私も半分以上は工場労働者だと思った。
このあと，特に意見もなかったので，(6-2) を配布した。(このとき新井が入室してきた)

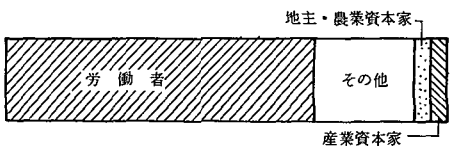
当時のイギリスの労働者360万人の職業別内訳は，下の表のとおりです。

〔表Ⅵ－1〕

工場労働者	およそ	20万人	(5.5%)
鉱山 〃	〃	70万人	(19.5%)
家内 〃	〃	80万人	(22.2%)
家事 〃	〃	80万人	(22.2%)
農業 〃	〃	110万人	(30.6%)
		360万人	(100%)

このように，工場労働者は5.5%で，家事労働者や農業労働者が著しく多いのが，このころのイギリスの特徴といえます。

以上の賃金労働者の他に，資本家，地主，農業資本家，自営商工業者とよばれる人々がいました。



(就業人口520万人に対する比率)

しかし，いずれにしても就業人口の過半数が"賃金労働者"であったことは確かです。1800年代のはじめには，イギリス国民の大半は「労働者」に転化していたといえるでしょう。

(6-2)

表VI-1で，工場労働者の割合が5.5%と低いことにたいして生徒からは「へえ，こんなに少ないの！」「ちょっと少なすぎるんじゃない？」「家事労働って何さ？」などの声があがった。

(6-2) では，maidを中心とした「家事労働者」とよばれる人々や「農業労働者」の人口が多かったことが注目される点である。

また，図VI-2によって，〝労働者〟の数が，就業人口の約70%を占めている点に注目させ，産業革命を通じて，明らかに労働者階級の数的増大があったことを確認した。

ある国が，工業国であるか農業国であるかを規定する際，何をメルクマールとするかという問題がある。

就業人口に占める割合の大小によって規定する方法が不適切であるというのが (6-3) の質問と (6-4) の話である。

予想分布

(ア) 0

(イ) 8

(ウ) 1

前ページの表にもあるように，1830年ごろの農業労働者は110万人とその数は他の労働者数と比較して一番多く存在していました。

(質　問)　では当時のイギリスは農業国だったと思いますか，それとも工業国だったと思いますか。

(ア) 農業国だったと思う。

(イ) 工業国だったと思う。

(ウ) その他 (　　)

(6-3)

(ウ)のその他を答えた生徒の意見は「農業国と工業国の中間」というものであった。

ここでは，すぐ（6-4）を配布して授業をすすめた。

（6-4）では，農業国から工業国への転化を確認する場合，表VI-2，図VI-3に示してあるように，産業別国民所得の比率の推移をみることが有効である点を説明した。

農業国から工業国へ

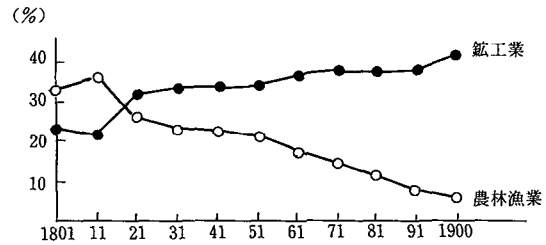
一般に，社会構造の変化の特徴は，農林漁業（第一次産業）の相対的地位の低下と，鉱工業（第二次産業）の比重の増大にもとめることができます。

そしてそのことは「産業別国民所得の比率」から確認することができます。

次のグラフをみてみましょう。

〔表VI－2〕

年	1801	1811	1821	1831	1841	1881	1891	
農林漁業	32.5	35.7	26.1	23.4	22.1	10.4	8.6	%
鉱 工 業	23.4	20.8	31.9	34.4	34.4	37.6	38.4	%



このように，イギリスでは1810年代にすでに農業国から，工業国へ転化していたといえるでしょう。

(6-4)

(6-5) 予想をとる。

予想分布
(ア) 1
(イ) 6
(ウ) 2(30人くらい 20人くらい)

イギリスでは17世紀に，いわゆる「名誉革命」がおこり，以来不十分ながらも立法権は議会に，行政権はこの議会にたいして責任を負う内閣に，という政治形態をつくりあげていました。

〔問　題〕 産業革命が進行していたイギリスでは年々人口が増え，1830年ごろにはおよそ1,350万人の人口がありました。そして，国内にはいくつもの都市が成長しました。その中でもマンチェスターは代表的な都市であり，1830年ころの人口は20万人にも達していました。

さて，当時のマンチェスターから何人の議員が選出されていたと思いますか。

1830年当時の議員定数は上院でおよそ360くらい，下院で500数十でした。

(予　想)
(ア) 10人くらい。
(イ) 5人くらい
(ウ) その他 (　人くらい)

予　想

どうしてそう思ったのか理由があれば出しあいましょう。

(6-5)

T：じぁ先に「その他」を予想してくれた2人から，理由を聞いてみるかな。知里さんは30人くらいと予想したけど，どうしてそう思ったの。

知里：㋒マンチェスターはね，代表的な工業都市だし，人口もずいぶんあったんだからね，30人ぐらいは議員がいたと思う。

T：能代谷君は，20人くらいだね。どうしてそう思った？

能代谷：㋒なんとなく。

T：得永さんはどうして(ア)の10人くらいだと思ったの。

得永：㋐人口が20万人でしょう。それに議員定数がね，上院で360，下院で500数十人なんだから，10人くらいは出ていたと思う。

T：小林さんは(イ)の5人くらいだね。どうしてそう思ったの。

小林：㋑大きい人口はかかえていたけどね，議員の定数はそんなに多くないと思う。

T：新井君も(イ)の5人くらいだけど，どうしてそう思った？

新井：㋑うん，特に理由はないんだけど，だいたい5人くらいがいいとこじゃないかな。

T：山本君も(イ)だね。どうしてそう思った？

山本：なんとなく。

このあと(イ)を予想した4人に理由を聞いたが，いずれも「なんとなく」であった。

（6-6）を配布。

議員定数が0であったことや，ダンヴィッチなどの腐敗選挙区の実態に，生徒からは驚きと苦笑の声があがった。

予想分布
(ア) 1
(イ) 1
(ウ) 8
(エ) 0

腐敗選挙区

産業革命を通じてできた新興の工業都市には，マンチェスターの他にバーミンガム（1830年，約15万人），シェフィールド（同年，約9万人）などがありました。

ところが，古い選挙法のために，これらの新興都市からは1名の議員もだすことができませんでした。逆に，人口がとても少ないのに，多くの議員を選出しているところが数多くありました。　（答は0人）

たとえば，人口がわずか10人になった古い町に，議員定数が2名あったりまた，ダンヴィッチという町は，地形が変化して海中に沈んでしまっているのにやはり，2名の議員を選出していました。

このように，民意を反映できない選挙区を「腐敗選挙区（ロットン＝ボロー）」といいました。

〔問　題〕 今あげたダンヴィッチでは，どんな方法で議員を選出したと思いますか。

(ア) 海岸近くに有権者があつまり，投票をした。
(イ) 海にボートを出して，投票をした。
(ウ) 選挙管理委員会あてに郵送投票をした。
(エ) その他（　　）

予　想

（6-6）

T：新井君はどうして(イ)だと思ったの。
新井：㋑海にボート出すなんて，おもしろそうだから…（笑い）
T：おもしろそうだからかい。門脇君はどうして(ウ)だと思ったの。
門脇：㋒これが一番あたり前だからね。
T：長谷川さんはどうして(ウ)だと思ったの。
長谷川：㋒この方法しかないんじゃないかなあ。
T：得永さんも(ウ)だね。どうしてそう思ったの。
得永：㋒選挙なんだからね，郵送っていうのが一番確実でしょ。
T：坂口君も(ウ)だね。
坂口：㋒なんとなく。
T：知里さんも(ウ)だね。どうしてそう思ったの。
知里：㋒(ア)や(イ)だったらね，おかしいと思うのね。やっぱりね，きちんとしてなきゃ。
T：小林さんも(ウ)だね。どうしてそう思ったの。
小林：㋒海中に沈んでしまっているからね，町がないんだから，やっぱり郵送投票したと思うの。
T：なるほど，他に何か意見ないですか。
　予想変更したい人はいないかい。

(6-7) を配布した。ここでは腐敗選挙区の具体的事例を説明し，14 時間目の授業を終えた。

予想分布
(ア) 3
(イ) 4
(ウ) 2
(エ) 1

ダンヴィッチには40名の有権者がいましたが，選挙のときにはボートをだして投票したということです。この町は，サフォーク州の北の方，イプスウィッチの北東の海岸にありました。

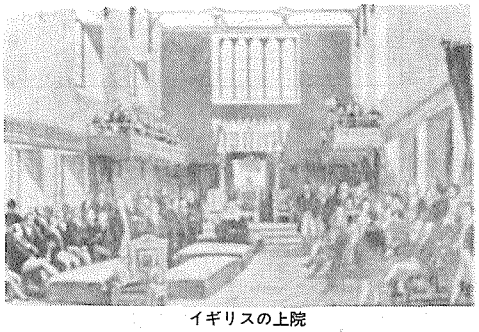
この他に腐敗選挙区といわれるもののなかには，人口が有権者数より少ないという奇妙な町もありました。たとえば，オールドサームは有権者数が7名なのに，実際には，1776年に1軒の酒屋があっただけで，1792年にはこの酒屋もなくなってしまいました。それでも選挙になると，テントをたてて投票所をつくっていました。

〔問　題〕 1830年のイギリスでは，有権者は全国民にたいして何パーセントぐらいでしょうか。

（予　想）
(ア) 2～3％ぐらい。
(イ) 8～10％ぐらい。
(ウ) 20～30％ぐらい。
(エ) 50％以上。

予　想

どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。



イギリスの上院
〔図VI-4〕
(6-7)

15 時間目　'83. 11. 10 実施　　欠席 1 名（藤沢）

※　この日は2時間つづきの授業であったのですぐ（6－7）の〔問題〕を読み，予想をとった。

T：じゃぁ，ちょっと理由を聞いてみようかな。坂口君が㈡の50％以上だけど，どうしてそう思ったのかな。

坂口：㈡うーん，半分はいたんじゃねぇかな。

T：山本君は㈢の20～30％ぐらいだね。どうして㈢だと思ったの。

山本：㈢なんとなく。

……

このあとの能代谷㈢，得永㈠，知里㈠の理由はいずれも「なんとなく」であった。

T：小林さんは㈠の2～3％だね。どうしてそう思ったの。

小林：㈠うん，私はね，女性や労働者には選挙権がなかったと思うのね。だから，かなり少ないんじゃないかなって…。

T：なるほど。長谷川さんも㈠だね。

長谷川：㈠このくらいかな。

T：門脇くんも㈠だけど，どうしてそう思った。

門脇：㈠なんとなく。

このあと特に意見も出なかったので，（6-8）を配布した。

ここでは，当時の議会が身分制議会であった点について，補足説明を加えた。
次に問題を読み，予想をとった。

予想分布

(ア)	0
(イ)	2
(ウ)	2
(エ)	3
(オ)	3

1830年当時，選挙権をもっていたのは，貴族(地主)，商業資本家などのごく一部の人たちだけで，全国民にたいする有権者比はわずか3％（43万人）にすぎませんでした。

〔問　題〕 1830年をすぎると，イギリス国内は急速に「腐敗選挙区」の撤廃と選挙権の拡大などを要求する運動が高まりました。
さて，この運動をおしすすめたのは，主にどのような人々だったと思いますか。

（予　想）
(ア)　おもに産業資本家（ブルジョアジー）
(イ)　おもに労働者（プロレタリアート）
(ウ)　おもに産業資本家と労働者
(エ)　おもに中小の地主
(オ)　おもに中小の地主と産業資本家

どうしてそう思ったのか理由があればだしてみましょう。

(6-8)

T：ちょっと理由を聞かせてもらおうかな。山本君はどうして(イ)だと思ったのかな。
山本：①よくわかんないけど…，なんとなく。
T：長谷川さんも(イ)の〝おもに労働者〟だけど，どうしてそう思ったの。
長谷川：①労働者にはね，選挙権なかったからね，だから労働者が中心になって運動したと思う。
T：知里さんは(ウ)の〝産業資本家と労働者〟だけど，どうしてそう思ったの。

知里：㋒新しい都市には議員定数がなかったしね，そこには産業資本家もいるわけだから，だから㋒だと思う。

T：能代谷君も㋒だね。

能代谷：㋒なんとなく。

T：得永さんは㋓の中小の地主だね。どうしてそう思ったの。

得永：㋓よくわかんないけど…，なんとなく。

T：細川君も㋓だね。どうしてそう思ったの。

細川：㋓中間（層）だからね，手ごろなんじゃないかなって…。

T：門脇君はどうして㋓だと思ったの。

門脇：㋓なんとなく。

T：新井君は㋔の〝中小の地主と産業資本家〟だけど，どうしてそう思ったの。

新井：㋔ある程度〝金〟もあるしね，〝顔〟もひろいからね，だからいいんじゃないかな（笑い）

T：小林さんはどうして㋔だと思ったの。

小林：㋔産業の方も発達してきたからね，次に出てくるのは産業資本家や中小の地主だと思うの。その次に出てくるのが労働者じゃないかな。

T：坂口君も㋔だけど，どうしてそう思ったの。

坂口：㋔（小林さんに）いわれてしまった。

T：あとほかに意見ないだろうかな。…予想変更したい人はいないかな。

(6-9) を配布し，読みすすんだ。
ここでは特に労働者の意識の変化について強調した。
(質問) では特に理由でなかったので，すぐ (6-10) を配布した。

予想分布
(ア) 1
(イ) 5
(ウ) 4
(エ) 1

選挙権の拡大，さらに「腐敗選挙区」の撤廃，それにともなう議員定数の変更……などの要求をかかげ，選挙法改正の運動をおしすすめたのは，主に産業資本家と労働者でした。

新興の産業資本家には選挙権がなく，そのため，自分たちの利益にかなう経済政策などを議会を通じて反映することができませんでした。今や財力で貴族や商業資本家をしのぐ勢いの産業資本家は，政治の舞台でも，その地位を高めようとしていたのです。

一方労働者の方は，低賃金，長時間労働など過酷な労働条件を強いられ，基本的人権，生存権がしばしばおびやかされる状態にありました。ですから，労働者の人たちは，自らの生活と権利を守るためには，選挙権を拡大し，自分たちの代表を議会へおくりこんで，今までの古い政治を変革しなければならないと考えるようになっていたのです。

運動の結果，1832年ホイッグ党のグレー内閣は「第一次選挙法改正」をおこないました。それによって「腐敗選挙区」は廃止され，新たに144議席が大都市，新興都市に再配分されました。

しかし，もう一つの要求であった選挙権の拡大問題では，産業資本家と都市・農村の中産者に選挙権が認められただけで，就業人口の過半数をしめる労働者には，依然として選挙権は認められませんでした。

(質　問) 「第一次選挙法改正」によって有権者は全国民の何パーセントぐらいになったと思いますか。

(ア) 4％ぐらい
(イ) 10％ぐらい
(ウ) 25％ぐらい
(エ) 40％ぐらい

(6-9)

労働者とチャーチスト運動

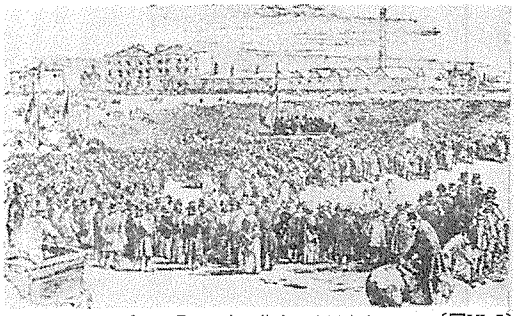
有権者は，わずか4.5%（65万人）になっただけでした。

労働者が参政権の拡大運動をすすめるようになった背景には，生活上の実体験のほか，1830年におきたフランスの「七月革命」の影響がありました。

「第一次選挙法改正」では，参政権を得られなかったものの，彼ら労働者のあいだには，自らの権利を守るためには団結をして行動しなければならないという意識が広がっていきました。

参政権を獲得した産業資本家は，以前のように，参政権拡大のために，労働者と行動をともにすることはなく，むしろ様々な面で対立するようになっていきました。

労働者の人たちは，産業資本家に利用されたことを感じ，その後は独自に参政権拡大の運動をすすめることになりました。これが有名な「チャーチスト運動」です。



チャーティストの集合　人民憲章の要求貫徹のため，議会請願に集合したところ。　〔図VI-5〕

この運動がチャーチスト運動とよばれるのは，役らが議会改革についての要求を6項目にまとめ，これを「人民憲章（ピープルズチャーター）」と名づけたことに由来しています。

(6-10)

（6-10）では，資本家階級が所期の目的を達成したのちは労働者階級から離れ，逆に対立を深めるようになっていった点を強調した。

(6-11) を配布し，予想をとった。

予想分布

	(ア)	(イ)	(ウ)
○	8	4	7
×	2	6	3

〔問　題〕 次の(ア)〜(ウ)のうち，チャーチストの6項目要求に含まれていたと思うものには○，含まれていなかったと思うものには×をつけてみてください。

(ア) 成年男女に普通選挙権をあたえよ。
(イ) 秘密投票制にせよ。
(ウ) 議員にも給料をだせ。

（予　想）

(ア)	(イ)	(ウ)

(6-11)

ここでは特に理由もでてこなかったので，(6-12) を配布した。

(6-12) では(1)〜(6)について一つずつ補足説明を加え，「6 項目要求」がでてきた社会的背景を理解させた。

特に(2)については，買収，供応があたり前に行なわれていた点を述べた。

チャーチストが掲げた 6 項目の要求は次のとおりです。

(1) 成年(21歳以上)男子普通選挙権
(2) 無記名秘密投票
(3) 議員の財産資格の撤廃
(4) 議員にたいする歳費支給
(5) 選挙区の平等
(6) 議員の毎年改選

(1) については，婦人にも選挙権をあたえよという声もありましたが，結局とりいれられませんでした。

(2) については，従来，秘密投票ではなく，極端な場合は広場にあつまって挙手で決めることもあった程で，公平な選挙とはいえませんでした。

(3) については，一定の財産（収入）を有しない者は立候補できないことになっていました。ですから，大多数の国民には立候補の自由がなかったのです。

(4) については，当時の議員は地主貴族らの名誉職であったため，無給でした。無給だと，収入の少ない労働者は議員としての活動ができず，結局議員にはなれないことになります。

(6-12)

16時間目　'83. 11. 14 実施　　欠席3名（新井，藤沢，細川）

前回までの授業内容を授業書にそって復習したのち，（6-13）を配布した。

予想分布
(ア) 1
(イ) 2
(ウ) 5

〔問　題〕 この6項目要求は，1839年に150万人分の署名というイギリス史上はじまって以来の数に達しました。その署名は，同年，議会へ提出されました。
さて，その結果はどうなったと思いますか。

（予　想）
(ア) まったく相手にされず，大差で否決された。
(イ) 過半数ギリギリで要求は可決された。
(ウ) 6項目のうち，いくつかは可決されたが，全部ではなかった。
どうしてそう思ったのか理由があればだしあってみましょう。

予　想

(6-13)

T：では，長谷川さんから理由を聞いてみるかな。どうして(ア)だと思ったの。
長谷川：㋐「労働者」だからね，全然相手にされなかったんじゃないかなって思った。
T：山本君は(イ)だね。過半数ギリギリで可決された。どうしてそう思ったの。
山本：㋑なんとなく。
T：坂口君も(イ)だね。どうしてそう思ったの。
坂口：㋑なんとなく。
T：小林さんは(ウ)だね。

小林：㋒うん，やっぱりね，ある程度のものはね，認めたと思うんだけど…。

T：知里さんも㋒だけど，どうしてそう思ったの。

知里：㋒150万人という署名数はね，まったく無視できる数じゃないしね，やっぱり要求を受け入れたんじゃないかなって思うの。ただね，自分たち（注：資本家の議員のこと）の都合のいいように，部分的に認めたんじゃないかなって思う。

T：得永さんはどうだろう。㋒だね。

得永：㋒特に理由はないんだけど…。

T：門脇君も㋒だね。どうしてそう思ったの。

門脇：㋒知里さんと同じ理由で。

T：能代谷君はどうして㋒だと思った。

署名数は150万人という，イギリス史上はじまって以来の多数にのぼったにもかかわらず，議会は235対46で普通選挙法案は否定してしまいました。

しかし，チャーチストの運動家たちは，ねばり強く署名活動，集会を組織しつづけました。

翌年の1840年からは2回目の署名運動をはじめ，1842年4月までに前回の2倍以上の330万人の署名をあつめることができました。

この署名にもとづき，再び要求を議会に提出しました。

ですが，やはり賛成が少数で否決されてしまいました。しかし，労働者の人たちの議会改革への熱意は変らず，なおもチャーチストとしての運動はつづけられました。

そしてついに，6年後の1848年には3回目の署名，実に570万6千人分をもって，三たび議会へ提出したのです。

1848年前後というと，イギリスの総人口がおよそ1,700万人で，そのうち就業人口は男子でおよそ654万人，女子でおよそ283万人，合計937万人でしたから，チャーチストのあつめた570万6千人という署名数は，就業人口の61%にあたる計算になります。

1848年のチャーティスト　4月1日ロンドンのケンシントン広場へ集まったものは，50万を数え，政府は20万の軍隊と警察を備えたといわれる。当時の絵。

〔図VI-6〕

〔表VI－3〕

署名数推移	
第1回（1839年）	150万人
第2回（1840年）	330万人
第3回（1848年）	550.6万人

※　なお、3回目も議会で否決されてしまいました。

(6-14)

能代谷：㋒なんとなく。

T：ほかに何か意見ないかな。…予想変更したい人はいないかな。

（6-14）を配布した。

（6-14）は，署名数の増大，運動参加の広がりという事実から，労働者の意識の高まりや「組織化」のうごきを読みとってもらうための「話」である。

ここでは，現代のようにマスメディアが発達していない時代にもかかわらず，短期間に労働者の要求が「組織化」されていった点を強調した。

※　なお，この授業書の［表VI-3］の署名数推移のうち，第3回が，550.6万人となっているのは570.6万人のまちがいであったが，生徒に訂正するのを忘れてしまった。

（6-15）を配布した。

〔問　題〕　このように，チャーチストの議会改革の運動は，多数の労働者を参加させ，大きな盛りあがりをみせました。

さて，短期間にもかかわらず，第1回目の150万人から第3回目の570万6千人という署名数に増大できたのは，どうしてだと思いますか。

君の考え：

（6-15）

この問題では選択肢がなかったため，生徒はずいぶん苦労したようである。
意見も十分にはでてこなかった。

≪生徒の主な意見≫

山本：署名の数が多ければ，要求を受け入れてくれると思って，いっしょうけんめい集めたんじゃないかな。

得永：労働者の数がもともと多かったんだから，あれだけ集められたと思う。

小林：労働者の生活そのものが苦しかったし，それを少しでも改善しようとするチャーチストの要求は，労働者が支持できる内容のものだったから。

知里：労働者一人ひとりが自分たちの生活をよくしたいという願いで署名していった。

（6-16）（6-17）を同時に配布した。

労働者の組織化＝労働組合運動の発展

産業革命の進行にともない，資本主義社会のもつ矛盾もだんだん大きくなっていきました。労働者は，失業，不況を経験し，それらのことから，生活を守るためには働く仲間同士が団結をし，組織的に行動をとっていかなくてはならないことに気がついていきました。

そこで生まれたのが，労働組合です。

(1) イギリスにおける最初の全国組織は「全国労働擁護協会」(1830年6月）というもので，組織の中心はイギリスの北部，中部の労働者でした。

しかし，農業労働者や家事労働者はほとんど組織されず，組織人員は5～7万人程度でした。これは労働者総数の2～3％にすぎませんでした。

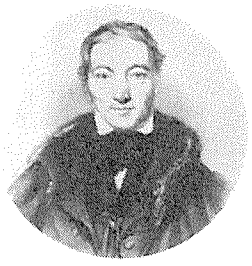
(2) 2番目につくられた全国組織は「全国労働組合連合（グランド・ナショナル）」（1834年2月）というものです。この組織を指導したのは，空想的社会主義者といわれているロバート=オーエンでした。

この全国組織は，イギリスのみならずスコットランド，アイルランドの労働者をも組織化しようとした点，さらに農業労働者も組織対象とした点に特徴があります。

中心になったのは，ロンドンの仕立工など，職人的労働者であり，まだ工場労働者は多くありませんでした。ちなみに，組織人員は50～80万人だったといわれています。

しかし，これら全国組織は経験も浅く，理論的にも未熟であったため，政府からの圧力や，内部的不統一のため，短期間のうちに崩壊してしまいました。

そのような時にでてきたのが「チャーチスト運動」だったのです。



ロバート=オーウェン（1771－1858）

〔図VI-7〕

（6-16）

第6テーマのまとめになる「話」である。

ここでは労働者の組織化の問題を労働組合の結成，とりわけ「全国組織」の結成，発展にむすびつけて説明をした。

とくに，初期の全国組織の「グランド・ナショナル」については，その歴史的意義について補足説明を加えた。

労働組合運動の復調……イギリスの1840年代

チャーチスト運動の盛りあがりは，同時に労働組合運動の再興・復調とも連動していました。

すなわち，1840年代はイギリスにとって労働組合運動の復活期だったのです。そのようすをいくつかみてみましょう。

40年代前半で結成された組合	40年代前半で再建された組合
・大ブリテン坑夫連盟	・陶工組合
・全国印刷工組合	・綿紡績工組合
・フリントガラス製造工合同組合	
・全国仕立工協会	
・大工指物師組合	

このように，労働者の組織化がつぎつぎにすすむなかで，1845年3月，イギリスで3番目の全国組織である「労働擁護全国労働組合連合」が結成されたのです。この全国組織は，それ以降1867年まで22年間存続しました。

まとめのはなし

以上まなんできたように，イギリス産業革命は古い生産様式をうちやぶり，新しい資本主義社会を出現させました。

それは，生産手段をもつ資本家と生産手段をいっさいもたない労働者が，両極に形成されていった過程でした。

労働者は，単に量的に増大しただけではなく，組合運動を通じて組織化され，社会変革への意識を高めていくことにより，真に「労働者階級」として成立したといえるでしょう。

(6-17)

VI 「イギリス産業革命（第二部）」の授業を終えて

生徒（4年B組）の評価（感想文より抜粋）

1) 個別テーマ

[1] イギリス農業革命

○地主のお金が，運河建設や輸送事業に投資されていたということがおもしろく，印象に残っている。（長谷川）（同感想：小林，山本）

○家畜のところで（1-6），殺されるのか，冬の間たべるのか，食料をやれるのか，いろいろ迷って考えたことが楽しかった。（細川）

○「家畜はどうして殺されるのか」。生活の糧になるのに殺してしまわなければならなかったということが，おもしろかった。（知里）

○議長席のイスの材料のところがおもしろかった。（坂口）

○農業の資本主義化，三分割制のところがわかりづらかった。（坂口）

[2] 農村工業の光と影

○黄金時代をすぎると，工賃が80％減になってしまうのには驚いた。（長谷川）（新井）

○手織工の数が減らなかったのは工場のきびしさを知っているからというけど，低賃金よりは力織工の方がいいと思う。きりかえればいいのに。（長谷川）

○工場は賃金が高いのに，家族といっしょに働ける家内制を選ぶとは，びっくりした。（知里）

○(2-2)の紡績機の発明で，手織工が不足して，他の職種よりも3～4倍の工賃で仕事ができたということが，よくわかった。（山本）

○手織工の努力がわかる。（岡崎）

○(2-6）の家族労働と工場のところで，家族労働では家族全員が自宅で就業できる，また労働を自由に計画することができるというのがよくわかった。（小林）

[3] 都市の形成

○黒いガが突然変異であらわれたとこが，とても印象に残っておもしろかった。（山本）

○悪臭を防ぐため，「カギ穴にまでボロきれをつめこんだ」なんてびっくりした。（得永）

○突然変異で「黒いガ」があらわれたなんて以外だった。いい事おぼえた。（長谷川）

○工業黒化～黒いガが突然変異で発生し，とぶようになったというのがとてもおもしろかった。（小林）

○(3-9)「悪臭がたちこめる長屋」～130～170人で1つの便所を使うなんてとてもたえられないことだと思った。（知里）

○「地下室」が織機をおく仕事場に使われ，後に住宅に使われたということがおもしろく，よくわかった。（小林，細川，長谷川，坂口）

[4] 産業資本の蓄積

○あんなふうにして船の中で奴隷たちが横たわっているなんてびっくり！　奴隷たちを売るなんて！（藤沢）

○船の中で奴隷がねせられて積められていたとは思いませんでした。おどろきました。（小林）

○奴隷商人のおもてしか見えなくて，本当の姿はイギリス人は知らなかったというところが，とてもおもしろかった。（小林）

○リヴァプール市庁に飾られていたものが「黒人の頭像」だったので，びっくりした。（長谷川，山本）
○奴隷商人が，りっぱな紳士と思われていたなんて驚きだ。ポスターのところで，〝奴隷を売ります，貸します〟なんてひどい！（長谷川）
○「すし詰めの奴隷船」～こんなにびっしり寝かせて運ぶとは想像もつかなかった。（知里）
○人間あつかいされていない，かわいそうな黒人のことが，よくわかった。
奴隷商人のざんこくさもよくわかった。「エレファントマン」に出てきたイギリス紳士もざんこくだった。（得永）
○この「産業資本の蓄積」のところは興味深かった。（得永）

5 労働者階級の状態

○「数分間のコソ泥」のところがおもしろかった。
資本家は，いかにして労働者を働かせるのが上手か，よくわかった。（小林）
○「資本家」と「労働者」のちがい（5-17）がよくわかる。今の私にもあてはまるから。（知里）
○（5-6）のドア番の子どものことが印象に残っている。
「利潤」とか「金利」とか，むずかしい言葉がでてきて，わかりづらかった。（得永）
○「ナイトメン」のことや「少年労働者」のことがわかっておもしろかった。
救貧院の子どもたちの工場での待遇も興味深かった。（長谷川）
○「トラックシステム」や「小屋制度」のところは，わかりづらかった。（長谷川，藤沢）
○「ナイトメン」の職業が便所のくみ取りとは思わなかった。おもしろかった。
数分間のコソ泥のところもおもしろかった。
ただ一言。「せこい！」（藤沢）
○婦人労働者が，お産のあと，休むと「クビ」になるなんておそろしい。（細川）
○労働者の平均寿命の短かさにはびっくりした。ナイトメンのところもおもしろかった。
○この授業書で，労働時間や労働の内容など，当時のようすがよくわかった。
「工場法」の制定のところはわかりづらかった。（岡崎）
○「社会的殺人」という意味がよくわからない。（坂口）

6 労働者階級の成立

○6項目要求ー大変な署名を集めたにもかかわらず，議会を通らないという事実におどろいた。いつの世も弱肉強食である。（小林）
○ダンヴィッチは海に沈んだ町なのに，ボートを出して投票するなんておもしろい。（知里）
○（6-15）の「署名数を短期間に増大できたのは，どうしてだと思うか」—「君の考えは？」ときくのには資料が少なくて，これだけの話ではどうしてなのか，わかりません。（得永）
○海に沈んだダンヴィッチの選挙方法で，ボートを出して投票したというのが，とてもおもしろかった。（長谷川）
○チャーチストのあつめた「6項目要求署名」の運動の結果を聞く「問題」もおもしろかった。（長谷川）

2） **全体の感想**（4年B組　12人中10人）

○やっぱり教科書とかしないで，プリントとかで説明していくなど，質問形式で授業をすす

めていった方が，皆わかるし，考えるなどして良いと思う。（細川）

○（授業書を使った授業は）ノートに書くよりわかりやすいので良い。今のままのやり方の授業でいいと思う。できれば，もう少しプリントを少なくしてほしい。（山本）

○一人一人が考えさせられる授業でおもしろかった。
アンケートを取る時間が，私は少し短かいと思います。（小林）

○問題も話もおもしろかった。授業の時間などやさしく，楽しく，わかりやすくおしえてくれるのでたすかる。
プリントを使う授業はテストのときにすごくらくだ。
2時間つづきの日は，あきてだれる。（新井）

○教科書よりよいと思います。それにテストのとき，大変やくにたちます。このままプリントですすんだ方がいいと思います。プリントの中の質問もいいと思います。（岡崎）

○映画をもっとみたい。でも，教科書よりはためになり，プリント，絵などでなんとなくりかいでき，そのプリントの文章を読んでわかってくる。教科書だと何が何だかわからん。
プリントの絵の方がわかる。
教科書もださないので，勉強しているのか，あそんでいるのかわからん。
でもわかりやすい授業で本当に良いと思う。これからもプリントでつづけた方が良いと思います。（門脇）

○教科書ばかりの授業で，ノート写しだけの授業もおもしろくないけど，ずーとプリントばっかりというのも，もの足りない気がします。
予想をたてていくのはおもしろいけど，なんか充実感がない。
プリントと教科書を半々ぐらいにして欲しい。
もっと世界中のことをくわしく知りたい。（長谷川）

○いちいち理由を聞くのは，理由を考えるのにひと苦労した。（得永）

○おもしろいのは，自分が予想しなかった答が出てくる時で，関心がもてる。
つまらないのは，あまり問題が多すぎて，何を勉強しているか，把握できないから。
見当がつかない問題とか「こんな問題なんになるんだろう」と思ってしまう。（知里）

○プリントの問題のときの㋐㋑㋒㋓に，みんなはおもしろがっていると僕は思う。
答がもし㋓となっているならば，㋐㋑㋒に手をあげた人は，自分なりにものを考え，発言していくなんて最高ですよ。それに，答のプリントが回わされ，あぁ㋓か！　と言っている人や，やばい，ちがうことしゃべっちゃったといっている人がたくさんいる。
僕がいいたいことは，このままプリントを続けなさい！（藤沢）

VII 若干の分析

(1) 授業書方式について

従来の講義型より授業書方式を支持する生徒は約90％であった。今回は定時制1クラス12名と生徒数は少なかったが，40～50名のクラスであってもほぼ同様の結果が期待できよう。

(2) 「わかる授業づくり」としての授業書方式と生徒の意識の変化について

授業書方式による授業をはじめた当初は，生徒の方から「考えるなんてめんどくさい」「予想の理由なんて言えない」などという消極的意見がでていた。

しかし，実際に授業をすすめるなかで，「いろいろ迷って考えたことが楽しかった」「質問

形式で授業をすすめていった方が，皆わかるし，考えるなどして良いと思う（原文のまま）」「一人ひとりが考えさせられる授業でおもしろかった」等々の感想が聞かれた。

「勉強＝苦痛なもの，おもしろくないもの」という図式がわずかでも崩れたのではないだろうか。

(3) 数量を予想させる「問題」について

数量の提示は，「問題の決着」としては有効なのであるが，実体験から離れた――予想材料が不十分なまま数量を問う問題は生徒に拒否されやすい。たとえば，(1-3) の「第二次エンクロージャ」の囲まれた耕地面積を「甲子園球場のおよそ何倍か」と問うものは，問題としては不適当のようである。

内容構成上はずせない問いであれば，「問題」ではなく「質問」の形式でよいであろう。

(4) 社会科学の用語について

生徒の方からは，用語の難しさを訴える声がいくつか聞かれた。確かに「利潤」と「もうけ」，「資本」と「資金」などのちがいや，「生産手段」「階級」といった用語は，具体的イメージがないまま，言葉だけで終ってしまった感じがする。

改訂にあたっては熟考すべき点である。

VIII 改訂のための今後の課題

生徒からの評価で，理解しづらい内容構成であったのは第6テーマの後半部分，つまり，〝階級としての成立〟という問題である。

その第一は，チャーチスト運動の発生過程である。それ以前の労働者のうごきとして「ラダイト運動」があるわけであるが，その中で，労働者の〝意識の変化〟がどうすすんだのか，すなわち，なぜ彼らはラダイト運動からチャーチスト運動へ転換したのか，――この過程がいっさい触れられていないという不十分さがある。労働者の社会変革への意識の変化（成長）過程をぬきに，チャーチスト運動だけをもってくるのにはやはり無理があった。

第二に「労働者の組織化」の内容が，署名数の増大と労働組合運動の高揚という2点で生徒にたたみかけるような，押しつけがましいものになっていることである。この部分は，第一にあげた「意識の変化」とともに，よりリアリティのあるダイナミックな内容に構成しなおす必要がある。

第三に，一方の極に存在する資本家階級の権力奪取の過程（特に政治権力）が十分示されていないことである。

2大階級の形成がイギリスの社会構造の変化の大きな特徴なのであるから，「団結禁止法」「工場法」「穀物法廃止」「航海条例廃止」など，資本家階級が権力を我がものにしていった過程を内容としてもり込むべきであろう。

なお，その他改訂を要する点は多々あるが，6つのテーマの設定については大むね妥当であったと考える。

おわりに

「第二部」作成にあたっては，北大の高村泰雄先生，一橋大の浜林正夫先生，北星余市高校の佐々木成行先生から資料，助言，協力等をいただいた。

「イギリス産業革命（第二部）」作成にあたっての参考文献

マルクス　『資本論』第一巻（大月書店）
エンゲルス　『イギリスにおける労働者階級の状態』（大月書店）
P．マントゥ　『産業革命』（東洋経済新報社）
アシュトン　『産業革命』（岩波書店）
トマス=モァ　『ユートピア』（岩波書店）
ヒューバーマン　『資本主義経済のあゆみ』上・下（岩波書店）
モートン　『イングランド人民の歴史』（未来社）
クチンスキー　『労働者階級の成立』（平凡社）
E．ウィリアムズ　『資本主義と奴隷制』
角山　栄　『生活の世界歴史』10（河出書房新社）
〃　『産業革命の群像』（清水書院）
〃　『講座西洋経済史Ⅰ』（同文館）
〃　『講座西洋経済史Ⅱ』（同文館）
角山，川北　『路地裏の大英帝国』（平凡社）
吉岡　昭彦　『イギリス資本主義の確立』（御茶の水書房）
〃　『インドとイギリス』（岩波書店）
芝原　拓自　『所有と生産様式の歴史理論』（青木書店）
浜林　正夫　『イギリス市民革命史』（未来社）
〃　『イギリス労働者階級の成立』（青木書店：『階級闘争の歴史と理論』所収）
〃　『古典入門エンゲルス・イギリスにおける…』（有斐閣）
〃　『物語労働者階級の誕生』（学習の友社）
〃　『自由と人権を求めて』（学習の友社）
服部　文男　『資本主義のあゆみと思想』（学習の友社）
荒井，内田　『産業革命の世界①』（有斐閣）
林　他　編　『世界史大系12　自由主義と国民主義』（誠文堂新光社）

授業書中の図版は下記の文献による（数字は文献ページを表わす）

A：角山『生活の世界歴史10』
図Ⅰ-1(56)，図Ⅰ-2(57)，図Ⅲ-1(169)，図Ⅲ-3(173)，図Ⅲ-5(182)，図Ⅳ-1(78)，図Ⅳ-5(63)，図Ⅳ-7(64)，図Ⅴ-1(171)，図Ⅴ-2(173)，図Ⅴ-3(177)，図Ⅵ-1(249)

B：角山『産業革命の群像』
図Ⅳ-2(25)，図Ⅳ-6(24)，図Ⅳ-10(25)

C：浜林他『古典入門エンゲルス・イギリスにおける労働者階級の状態』
図Ⅰ-8(105)，図Ⅴ-4(161)，図Ⅴ-5(162)，図Ⅴ-7(表紙絵)，図Ⅴ-10(133)

D：林他『世界史大系12』
図Ⅰ-4(21)，図Ⅰ-5(44)，図Ⅰ-7(44)，図Ⅱ-2(26)，表Ⅲ-1(21)，図Ⅲ-4(30)，図Ⅴ-6(59)，図Ⅴ-9(30)，図Ⅴ-11(58)，図Ⅴ-13(354)，図Ⅵ-4(49)，図Ⅵ-5(52)，図Ⅵ-6(355)，図Ⅵ-7(342)

E：貝塚他『世界の歴史4』（中央公論社）
図Ⅳ-8(300)

F：浜林『物語　労働者階級の誕生』

図IV-3(129)，図IV-4(128)，図IV-11(134)

G：服部『資本主義のあゆみと思想』

図Ⅰ-3(40)，図Ⅴ-8(40)

H：荒井他『産業革命の世界①』

図IV-9(51)，図IV-12(145)，図IV-13(172)

I：角山他『路地裏の大英帝国』

図Ⅴ-12(47)

J：ズヴォルイキン他『技術の歴史1』

図II-1(152)

K：三省堂版『新生物II』

図III-2(157)